

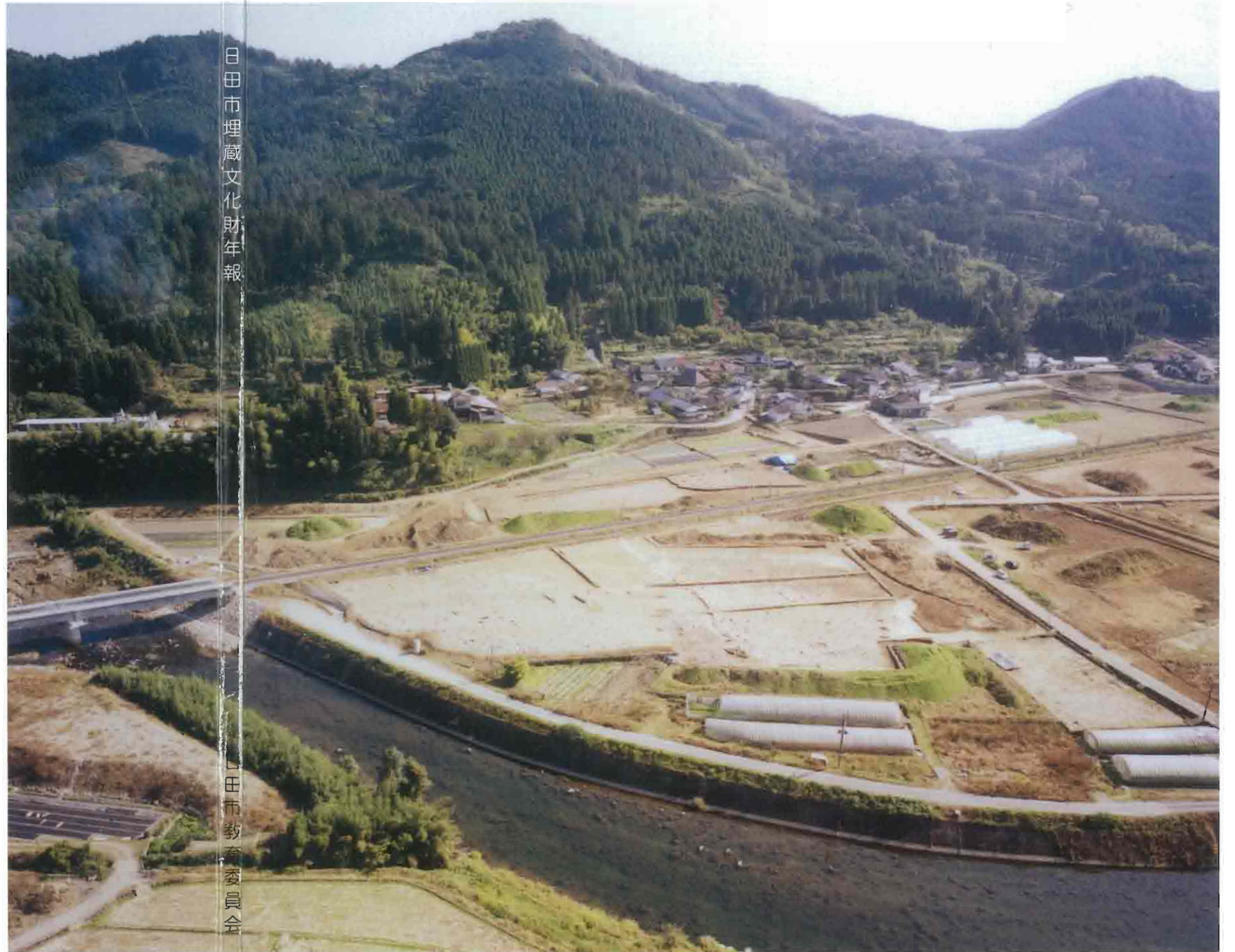
平成10年度(1998年度)

日田市埋蔵文化財年報

平成10年度

日田市埋蔵文化財年報

日田市教育委員会



発行にあたって

平成10年度も市内各所において、縄文時代から近世まで数多くの埋蔵文化財の発掘調査が行われました。なかでも、大肥条里中村地区の調査は、大明地域での初めての発掘調査となるなど大きな成果をあげることができました。

このほかにも、各遺跡調査では日田市の考古学や歴史を考える上で貴重な資料を提供してくれました。

本市での埋蔵文化財の調査は、ここ数年増加の一途をたどっており、今後さらに増えていくものと予想されます。こうした状況をふまえてこれからも開発者に対して埋蔵文化財へのご理解を求めると同時に、遺跡や遺物の公開などを通して、広く教育・文化の発展に寄与したいと考えております。

最後に、この1年間日田市の埋蔵文化財の調査に普及・啓発に、多大なるご指導・ご協力を賜りました関係者の皆様方に心よりお礼を申し上げます。

平成12年1月

日田市教育委員会教育長 加藤 正 俊

例 言

- 1、本書は、平成10年度に日田市教育委員会が行った埋蔵文化財保護事業の概要をまとめたものである。
- 2、本書には、大分県教育委員会が日田市内で行った埋蔵文化財保護事業の一部も合わせて掲載している。
- 3、発掘調査における遺物・図面・写真類等の資料については、日田市埋蔵文化財センター等にて保管・展示している。
- 4、受領図書は平成10年4月1日から平成11年3月31日の間に日田市教育委員会に寄贈された書物を掲載し、併せて日田市立博物館あての書物も掲載した。
- 5、表紙の写真は大肥条里中村地区B・C区の空中写真、裏表紙は同遺跡発見のC区下層2号墓の写真を使用した。また、掲載した写真の一部は、文化財写真家長谷川正美氏による撮影である。
- 6、本書に掲載した図面の作図・製図は各担当者が行い、受領図書一覧表の作成では黒木千鶴子氏の手をわずらわせた。
- 7、本書の執筆はⅠ－1)、Ⅱを土居が行ったほかは、各調査担当者が行った。
- 8、編集は土居と若杉が協議し、若杉があたった。

目 次

発刊にあたって

Ⅰ 平成10年度の埋蔵文化財調査事業	1
1) 平成10年度の埋蔵文化財調査の概要	1
2) 発掘調査・確認調査の概要	4
3) 試掘調査・立会調査の概要	42
Ⅱ 平成10年度の埋蔵文化財普及・啓発事業	51
1) 展示会の開催	51
2) 刊行物の紹介	51
Ⅲ 平成10年度埋蔵文化財関係受領図書一覧	52

I 平成10年度の埋蔵文化財調査事業

1) 平成10年度の埋蔵文化財調査の概要

平成10年度発掘調査等の動向（表1）

平成10年度は公共・民間開発の事前照会件数は60件にもものほり、このうち試掘・立会調査件数は28件、発掘調査件数は18件であった。なかでも民間開発の事前照会件数が増え、住宅造成や店舗建設に伴う照会が目立っている。こうした状況のなか住宅造成や店舗建設に先立ち上ノ馬場遺跡・三和教田遺跡D地点・同遺跡E地点の発掘調査を実施した。

また、公共事業関係は近年事業数が増加している県営圃場整備事業と市道建設の2つの事業に先立つ8件の調査を実施している。前者では大肥条里中村地区・内ノ下遺跡・川原田遺跡・山口遺跡・後迫遺跡を、後者では祇園原遺跡・長迫遺跡・尾漕遺跡調査をそれぞれ行った。

さらに保存整備に伴い史跡咸宜園跡（6年次）の確認調査、遺跡保存目として吹上遺跡（3年次）と天満古墳群（2年次）の確認調査を行った。

平成10年度の発掘調査の内容（表2・第1図）

旧石器時代の遺跡調査例はないが、三和教田遺跡D地点において一括品ではあるがナイフ形石器や二次加工剥片が出土している。縄文時代の遺跡では内ノ下遺跡で中期の阿高式土器が採集されており、三和教田遺跡E地点では土器・石器・木製品を伴う後・晩期の流路が発見された。

弥生時代遺跡の調査例は多く、集落関係では後迫遺跡で中期の竪穴住居跡や袋状貯蔵穴・土壙など、吹上遺跡で前期後半から中期後半の竪穴住居跡・袋状貯蔵穴・土壙、三和教田遺跡D地点で中期の竪穴住居跡、祇園原遺跡で後期の掘立柱建物群が調査された。墳墓関係では吹上遺跡で中期後半から後期前半の大型成人用甕棺墓・小児用甕棺墓・木棺墓・土壙墓・石蓋土壙墓などが発見された。また、大肥条里中村地区では中期の箱式石棺墓・石蓋土壙墓・木棺墓・小児用甕棺墓・祭祀遺構・配石遺構などが大規模に調査された。さらに平島遺跡では後期の大型成人用甕棺墓や石蓋土壙墓、元宮遺跡では後期の箱式石棺墓が調査されている。

古墳時代の遺跡の調査例としては、まず長迫遺跡C地点や近接する尾漕遺跡第5地点において後期の集落跡が発掘された。また、天満1号墳では墳丘測量図の作成を行い、平島遺跡E地点では後期の横穴式石室の一部や後迫遺跡では前期の箱式石棺墓が調査されている。

古代遺跡の調査では、後迫遺跡で奈良時代の掘立柱建物跡、長迫遺跡C地点では竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが調査されている。また、川原田遺跡では古代末頃の小刀・鉄鏃・白磁碗を副葬した墓が発掘されている。

中世遺跡では尾漕遺跡第5地点や平島遺跡E地点・川原田遺跡で掘立柱建物跡、上ノ馬場遺跡で溝や掘立柱建物跡、隈山遺跡では墓に伴うと考えられる五輪塔の一部が発見されている。

近世遺跡の調査例では、山口遺跡の2次調査で建物跡やトイレ遺構・風呂遺構が、また史跡整備に伴う咸宜園跡の確認調査でもトイレ遺構が発掘されている。

近世遺跡の調査では史跡整備に伴って咸宜園跡の発掘が行われた。5年目の調査では秋風庵北側で井戸や水路状遺構、現存する秋風庵南側の井戸では洗場遺構などが確認されている。

表1 埋蔵文化財の調査件数推移グラフ

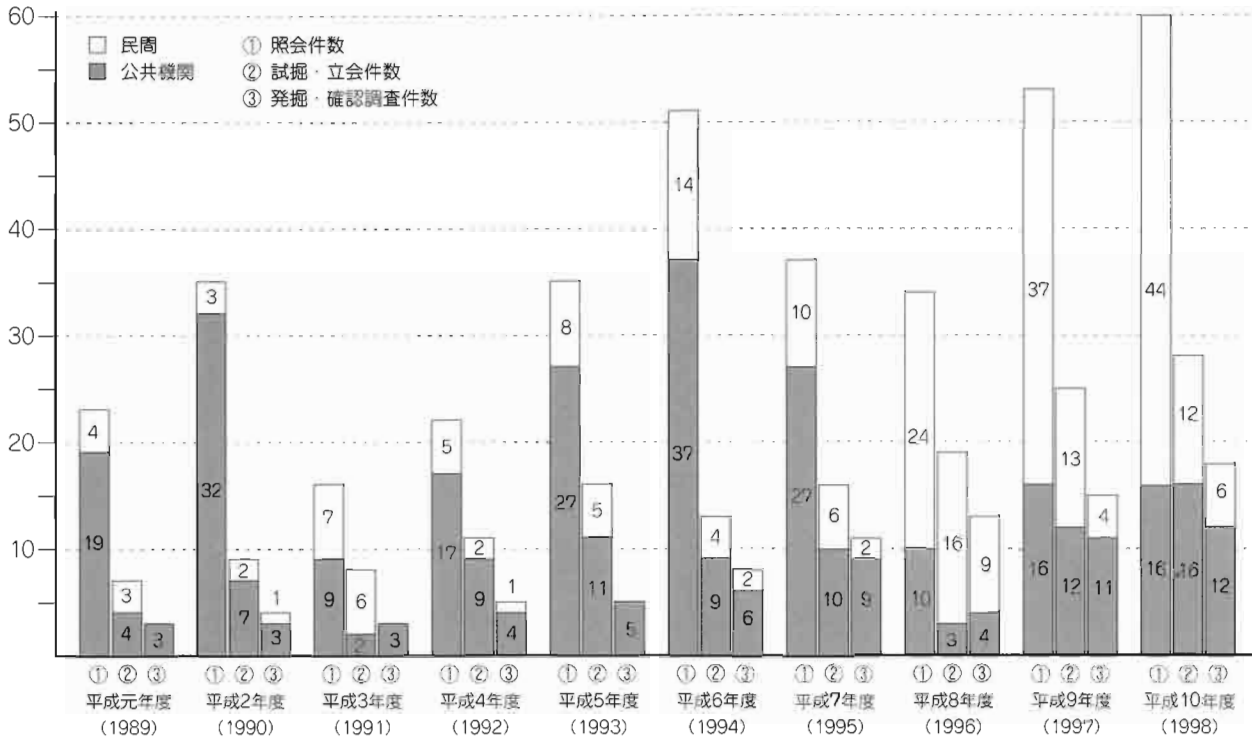


表2 平成10年度調査遺跡一覧表

日田市教育委員会

番号	遺跡名	所在地	調査原因	調査面積	調査年月日	備考
(発掘・確認調査)						
1	塔ノ本古墳	大字有田字尾其	市道建設	1,250㎡	0401~0630	前年度継続
2	山口遺跡2次	大字東有田字山口	圃場整備	6,000㎡	0407~0607	
3	長迫遺跡C地点	大字東有田字長迫	市道建設	3,000㎡	0416~0906	
4	祇園原遺跡2次	大字有田字尾其	市道建設	1,375㎡	~0520	前年度継続
5	平島遺跡E地点	大字東有田字スキザキ	市道建設	600㎡	0506~0712	
6	大肥桑里中村地区	大字大肥字横枕	圃場整備	10,000㎡	0707~1230	
7	元宮遺跡1次	大字求来里字堂園	土砂採取	10㎡	0714~0721	
8	吹上遺跡	大字小迫字吹上原	確認調査	291㎡	0722~0831	
9	上ノ馬場遺跡	大字北豆田字上ノ馬場	宅地造成	400㎡	0803~0822	
10	史跡成宜園跡	大字南豆田字中城	確認調査	120㎡	0928~0210	
11	三和教田遺跡D地点	大字三和字鮎町他	宅地造成	372㎡	1212~1223	
12	川原田遺跡	大字西有田字川原田	農道整備	360㎡	1217~0330	
13	内ノ下遺跡	大字西有田字内ノ下	農道整備	2,570㎡	1218~0326	
14	三和教田遺跡E地点	大字三和字貞清	店舗建設	38㎡	0104~0109	
15	後迫遺跡	大字三和(里遺)	農道整備	600㎡	0118~0323	
16	天満古墳	大字小迫字吹上原	確認調査	6,050㎡	0222~0327	
17	尾漕遺跡第5地点(6次)	大字東有田字三森	市道建設	610㎡	0226~0331	
18	隈山遺跡	大字石井字熊山	墓地造成	200㎡	0316~0331	
(試掘・立会調査)						
19	村前遺跡	大字庄手字村前	宅地造成	10㎡	0427	
20	日隈城隣接地	大字庄手字日ノ隈	宅地造成	40㎡	0501	
21	大宮遺跡隣接地	大字高瀬字小シマ	ポンプ場建設	10㎡	0520	
22	山田原遺跡	大字渡里(里遺)	農道整備	92㎡	0521~0523	
9	日田条里隣接地	大字北豆田字上ノ馬場	宅地造成	20㎡	0612	
23	日田条里下村地区	大字北豆田字下村	アパート建設	10㎡	0625	
24	赤迫遺跡隣接地	大字北豆田字扇畑	資材置場建設	35㎡	0706~980707	
25	ハル遺跡隣接地	大字羽田字ハル	圃場整備	110㎡	0820	
17	尾漕遺跡	大字有田字三森	道路建設	50㎡	0921	
26	会所宮遺跡	大字田島字中ノ手	店舗建設	20㎡	1005	
27	日田条里	大字西有田字シミドウ	宅地造成	12㎡	1104	
28	八田遺跡隣接地	大字羽田字八田	圃場整備	434㎡	1207~1208	
29	日田条里飛矢地区	大字田島字飛矢	畑地造成	26㎡	1209	
30	三和教田遺跡F地点	大字三和字寺田	アパート建設	30㎡	1211	
31	大内田遺跡	大字友田字大内田	給食センター建設	70㎡	1216	
32	大肥桑里和原地区	大字夜明字祝原	圃場整備	890㎡	0113~0128	
33	大肥桑里茶屋ノ瀬地区	大字夜明字茶屋ノ瀬	圃場整備	890㎡	0113~0128	
34	大肥桑里上村地区	大字夜明字上村	圃場整備	890㎡	0113~0128	
35	大肥桑里小鶴地区	大字夜明字小鶴	圃場整備	890㎡	0113~0128	
36	徳瀬遺跡	大字庄手字徳瀬	宅地造成	10㎡	0123	
37	大肥桑里中村地区	大字大肥字中村	駐車場建設	99㎡	0129	
38	日隈城隣接地	大字庄手字築場	大規模商業施設造成	10㎡	0202	
39	尾浮遺跡	大字石井字立石	事務所建設	35㎡	0208	
40	大波羅遺跡	大字田島字大原	道路建設	18㎡	0217~0223	
41	山田原遺跡	大字三和字原	選果場建設	55㎡	0221	
42	元宮遺跡2次	大字求来里字堂園	福祉施設建設	150㎡	0318~0331	
43	大行寺遺跡	大字西有田字大行事	農道整備	60㎡	0331	
44	草野家住宅	大字北豆田字	確認調査	30㎡	0116~0119	
大分県教育委員会						
1	日田条里成宜園地区	大字南豆田字中城	電中地下埋設	58㎡	1104~0207	



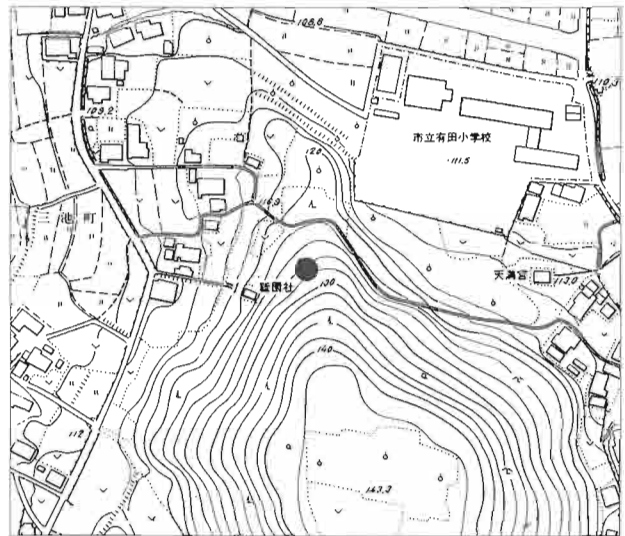
第1図 市内の調査遺跡位置図 (1/50,000) ※地図は市教育委員会調査分のみ

2) 発掘調査・確認調査の概要

1 塔ノ本古墳 (TMT)

所在地	大字有田字尾其1150
調査期間	0401~0630
開発面積	(32,271㎡)
調査面積	1,250㎡
調査費	原因者負担
調査年次	1年次
遺跡の時代	古墳
遺跡の種類	墓地
担当者	土居和幸・永田裕久
※ ()	は市道田島有田線全体工事面積

—市道田島有田線建設に伴う発掘調査—



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部、有田川右岸の標高約130mの祇園原台地へと続く斜面上に位置している。この古墳は調査以前から羨門部が露出しており、その存在が知られていた。遺跡の周辺には祇園原遺跡や長迫遺跡・平島遺跡のほか、平島古墳・尾漕2号墳・有田古墳等が点在している。

調査の概要

調査は前年度に引き続き行った。その結果、この古墳が単室の横穴式石室をもつ直径12mの円墳であることが確認された。周溝は幅約1~2m、深さは現状で約10cmを測り、ほぼ全周している。陸橋部については確認されていない。また、石室内からは須恵器・鉄鏃・人骨の一部が出土している。

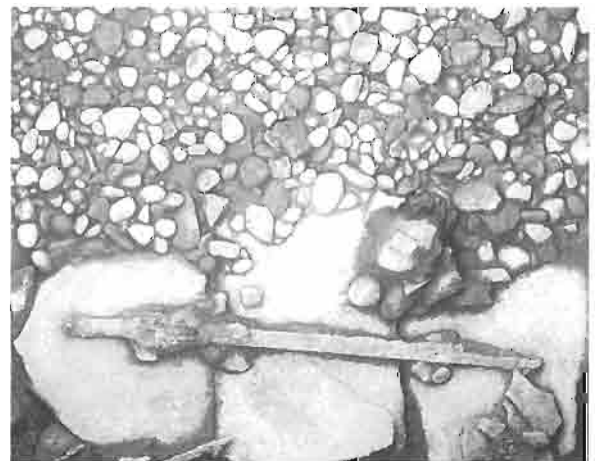
まとめ

今回の調査で、石室内に赤色顔料を塗布することや河原石を敷き詰めた床面に4枚の板石をならべた屍床を設けるなどの特徴をもった古墳であることが判明した。

古墳周辺の丘陵上に存在する他の古墳との関係や集落との関係を考える上では、当古墳は重要な位置を占めるものと考えられ、この地域の古墳時代を考える上では貴重な資料を提示している。(永田)



石室内発掘状況



石室内遺物出土状況

2 山口遺跡2次 (YMG-2)

—県営圃場整備事業東有田地区に伴う発掘調査—

所在地	大字東有田字山口1014-1ほか
調査期間	0407～0607
開発面積	(36,000m ²)
調査面積	6,000m ²
調査費	原因者負担
調査年次	2年次
遺跡の時代	奈良・中世・近世
遺跡の種類	集落跡
担当者	山路康弘
※ ()	は県営圃場整備事業東有田地区山口工区の全体工事面積



遺跡位置図 (1/25,000)

遺跡の位置

山口遺跡は日田市東部の東有田地区に位置し、遺跡のⅡ区とⅢ区の間を有田川が流れており、この川に形成された低位沖積地に存在する。山口遺跡を含む東有田地区には、祇園原遺跡・平島遺跡・城山古墳などが点在している。

調査の概要

調査は前年度に実施した1次調査区の西側及び有田川を挟んだ南側の2地区を行い、前年度の1次調査区をⅠ区とし、本年度のⅡ次調査区の北側をⅡ区、南側をⅢ区とした。

Ⅱ区・Ⅲ区の調査結果は次のとおりである。

(Ⅱ区) 検出遺構 柱穴・土坑(49基)・溝3条・竪穴住居跡(4基)・掘立柱建物跡(20棟)・井戸(5基)を確認。

出土遺物 石器・須恵器・土師器・輸入陶磁器・近世陶磁器・銅銭(寛永通宝)・かんざし(2本)・煙管(雁首)を確認。なお銅銭・かんざし・煙管は同一遺構内から出土。

(Ⅲ区) 検出遺構 柱穴・掘立柱建物(2棟)・溝(1条)を確認。

まとめ

今回の調査により、山口遺跡は有田川を生活基盤とし、古代～近世にかけての集落が継続的に存在していたことを確認した。Ⅱ区の竪穴住居跡は出土遺物から古墳時代の建物と思われる。掘立柱建物跡については柱穴から輸入陶磁器が出土しているため中世以降の建物と考えられる。また銅銭・かんざし・煙管を出土した遺構は、木桶の底が残っていたため、近世墓もしくは井戸と考えられるが、どちらにしても近世の集落が周辺にあったことを示している。そしてⅢ区の掘立柱建物跡は2棟とも庇付きのもので、溝と同様に時期は中世の遺構と思われる。これら今回の調査結果から、山口遺跡は有田川流域における中心的な集落の1つと考えることができるのではないだろうか。



Ⅱ区の空中写真



Ⅱ区の空中写真



Ⅱ区の空中写真

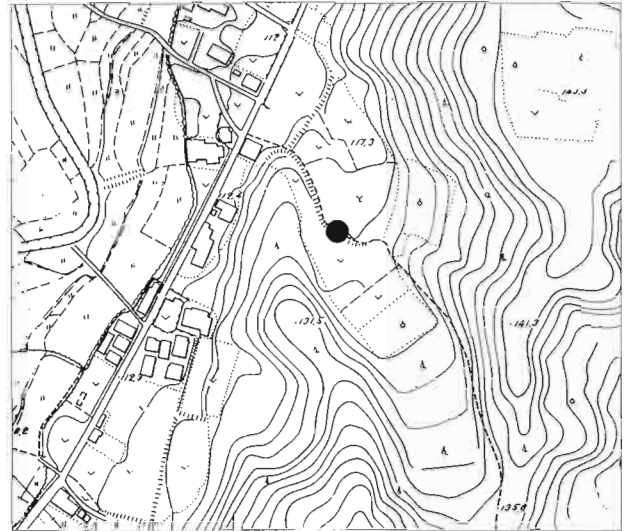


Ⅲ区の空中写真

3 長迫遺跡C地点 (NSK-C)

—市道田島有田線建設に伴う発掘調査—

所在地	大字有田字長迫1176ほか
調査期間	0417～0906
開発面積	(32,271m ²)
調査面積	3,000m ²
調査費	原因者負担
調査年次	1年次
遺跡の時代	縄文・古墳・古代・中世・近世
遺跡の種類	集落
担当者	吉田博嗣
※ () は市道田島有田線全体工事面積	



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は日田市東部の求来里川によって形成された低位沖積地右岸の、西側に開いた谷部の2小支谷に位置している。遺跡のすぐ東は長迫遺跡A・B地点と南側はD地点と接し、周辺には塔ノ本古墳、尾漕古墳などが存在する。

調査の概要

調査は平成7・8年度に実施された長迫遺跡A・B地点に隣接していることから、遺跡の広がりや遺構の密度は調査前からある程度考えられていた。調査では古墳時代後期～奈良・平安時代にかけての竪穴住居跡が54基確認されたほか掘立柱建物跡12棟、土坑3基、溝5条などが検出された。出土遺物は、竪穴住居跡に伴う土師器、須恵器、紡錘車などを中心に打製石器、磨製石器、輸入陶磁器、石鍋、五輪塔などが出土している。

調査の結果、集落は中央の鞍部を境として南北に集落が営まれているが、北側では北斜面に営まれているのに対し、南側では傾斜が緩やかになっている谷部の中央に立地しているという点で異なりを見ることが出来る。集落内の竪穴住居は、A地点で見られたような大型住居はなく、一辺4～6mほどの住居がまとまりをみせている。また、南側の谷では集落内を小単位で区画するように溝が確認されたが、傾斜に沿って巡っていることから排水利用していたものと思われる。住居内のカマド付設箇所は古墳時代の竪穴住居跡では北側に集中しているが、奈良時代の竪穴住居跡では東あるいは北東側に位置するようである。さらに、掘立柱建物跡は内3棟(2間×2間)が総柱の構造を有しており略南北方向に構築されている。そのほか、1号土坑からは五輪塔水輪部が出土している。

まとめ

今回の調査内容を含め、A・B・D地点および尾漕遺跡で確認された遺構は一連の集落跡と考えられることができ、古墳時代後期にかぎっては大規模な集落(現在約100軒が確認されている)が営まれていたことがわかってきた。近年、この周辺では調査が多数行われており、本遺跡の内容を理解する上で、周辺遺跡の成果も踏まえて今後検討していきたい。



遺跡遠景（南より）



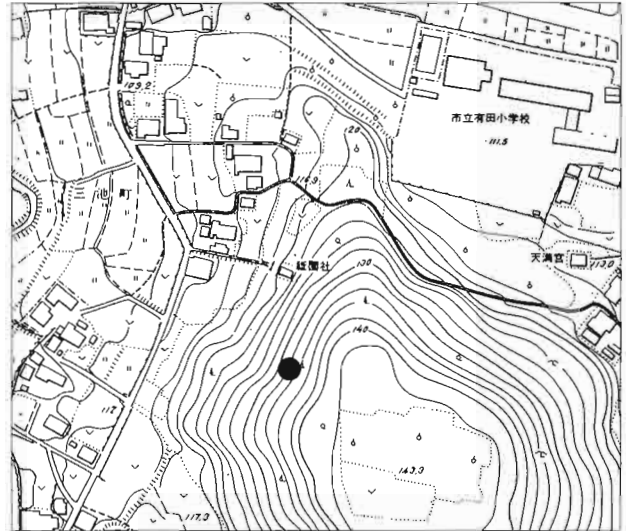
遺跡全景（真上より）

4 祇園原遺跡 2次 (GOB-2)

—市道田島有田線建設に伴う発掘調査—

所在地	大字有田字尾其1176-1
調査期間	0217~110520
開発面積	(32,271m ²)
調査面積	1,375m ²
調査費	原因者負担
調査年次	2年次
遺跡の時代	弥生・近世
遺跡の種類	集落跡・墓地
担当者	土居和幸

※ () は市道田島有田線全体工事面積



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部の池辺川右岸台地上に位置する。この台地は標高約140mで、沖積地との比高差は30mほどである。この遺跡の北側斜面には塔ノ本古墳があり、北側沖積地には平島遺跡、西側沖積地には尾漕遺跡、南側谷筋には長迫遺跡などが存在している。これまでに行われた1次調査(註)では、弥生時代中期から後期を主体とする集落跡や古墳時代後期の竪穴住居跡、57基の近世墓などが発掘されている。

調査の概要

今回の調査地点は台地東側の、平坦な地形から斜面へと変化する場所にあたる。調査では掘立柱建物8棟、近世墓2基、近世溝1条が検出された。掘立柱建物は調査区域外に展開するものもあるが、大半は1間×1間の建物と考えられる。これらの遺構からの遺物はほとんどなく、近世墓から2体の人骨が出土している。

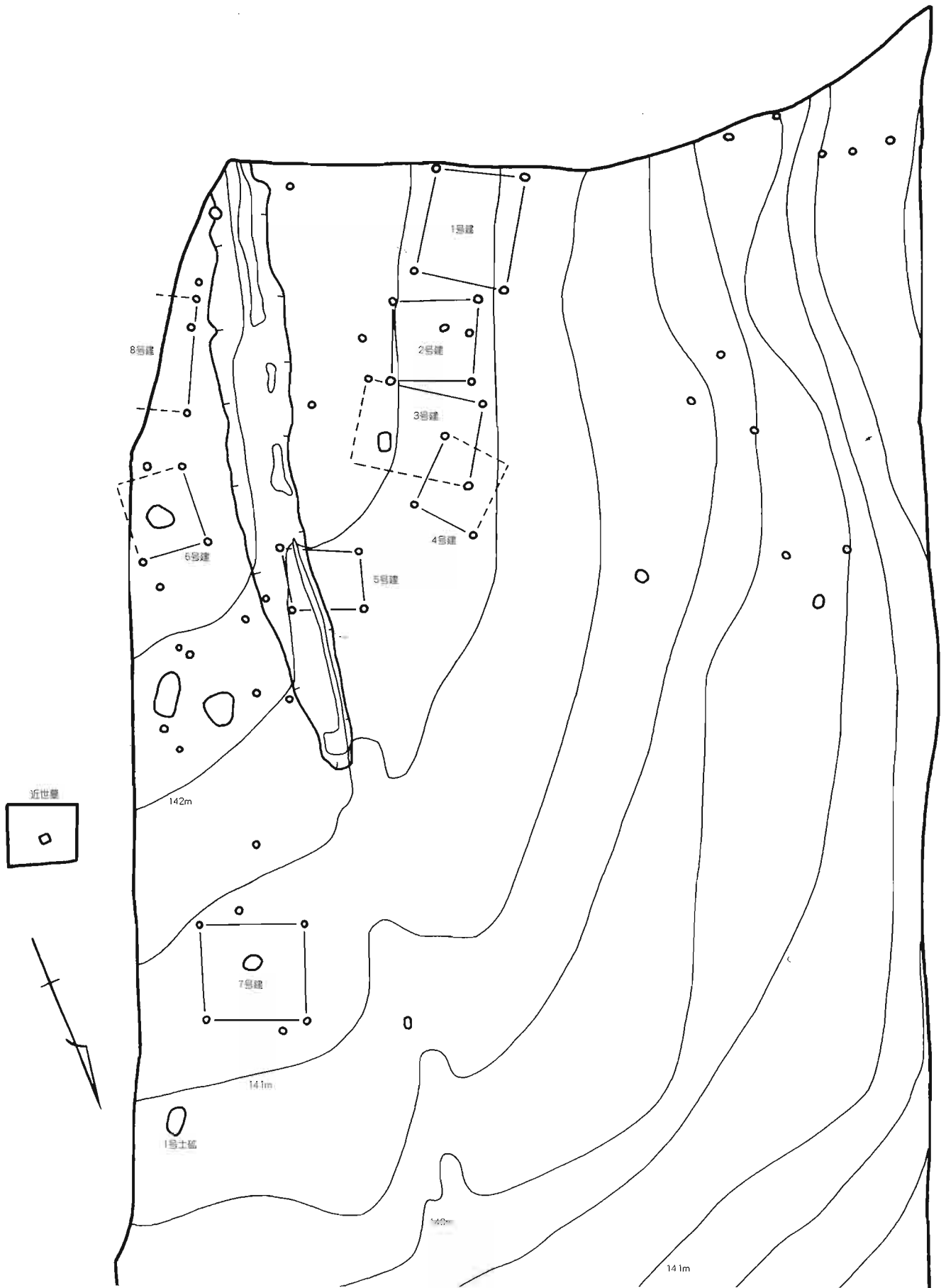
まとめ

発見された遺構のうち掘立柱建物群については、出土遺物が認められないことから時期の特定は難しいが、建物の規模が1間×1間であり、埋土の状況などからして1次調査において確認されている弥生時代中期から後期の集落に関連するものと考えられる。これらの建物群は標高142m前後に規則的に配置されており、集落の縁辺部に構えられた倉庫群であろうか。

(註) 行時志郎「祇園原遺跡」『平成8年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 1998年



遺跡空中写真

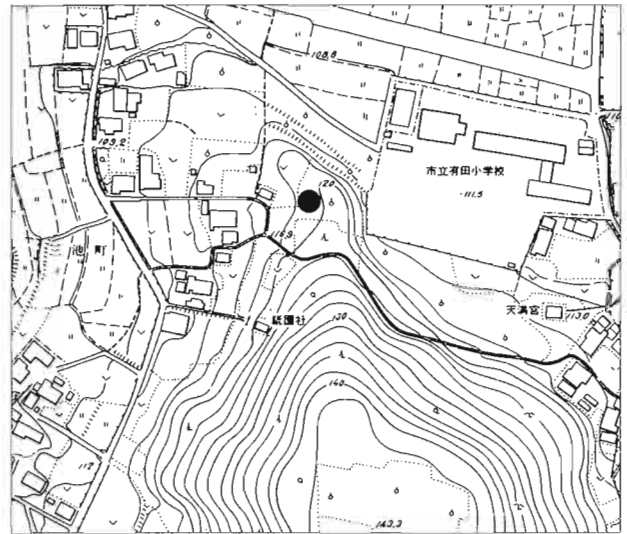


第1图 遺構配置图 (1/200)

5 平島遺跡E地点 (HSS-E)

—畑地造成に伴う発掘調査—

所在地	大字東有田字塔ノ本1148ほか
調査期間	0506～0712
開発面積	約700m ²
調査面積	600m ²
調査費	国庫補助
調査年次	5年次
遺跡の時代	弥生・古墳・中世・近世
遺跡の種類	集落跡・墓地
担当者	土居和幸



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部の標高約120mを測る有田川右岸丘陵先端部に位置している。このE地点に隣接するD地点^(註)では弥生時代の大型成人用甕棺墓や古墳時代後期の横穴式石室などが発掘調査されており、背後の斜面には塔ノ本古墳、台地上には祇園原遺跡などが存在する。

調査の概要

調査で検出された遺構と出土した遺物は弥生時代中期の竪穴住居跡1基(甕・壺・高坏など)、弥生時代後期の竪穴住居跡1基(甕・壺・椀など)・大型成人用甕棺墓1基・石蓋土壙墓1基、古墳時代後期の横穴式石室1基(鉄器1点)、中世の掘立柱建物4棟(土師器)などがある。

まとめ

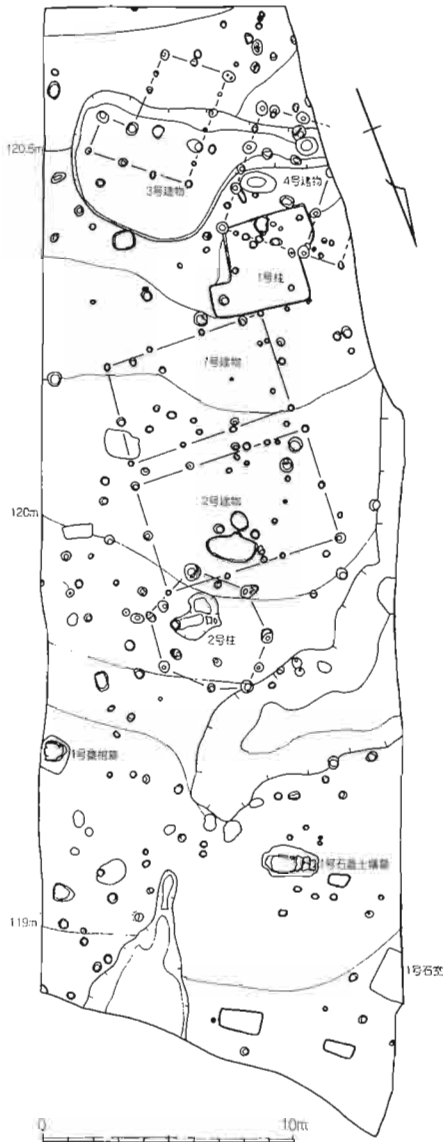
今回の調査で発見された遺構は隣接するD地点とほぼ内容が同じである。まず大型成人用甕棺墓や石蓋土壙墓はD地点でも確認され、その数計は9基となった。古墳時代後期の横穴式石室は石室内を赤色顔料で塗布しており、近接して存在する塔ノ本古墳や尾漕1号墳と似た在り方を示している。この横穴式石室の周溝については確認することができなかったが、近世の埋土が見られる2・3号溝から須恵器が出土していることなどから、本来は周溝として利用されていた可能性がある。

また中世の掘立柱建物は2つに分けられる。一つは2間×3間の1・2号建物と2間×3間の3・4号建物である。1・2号建物は併列に、3・4号建物は両建物が向い合うように配置されており、それぞれが関連する施設であることがわかる。

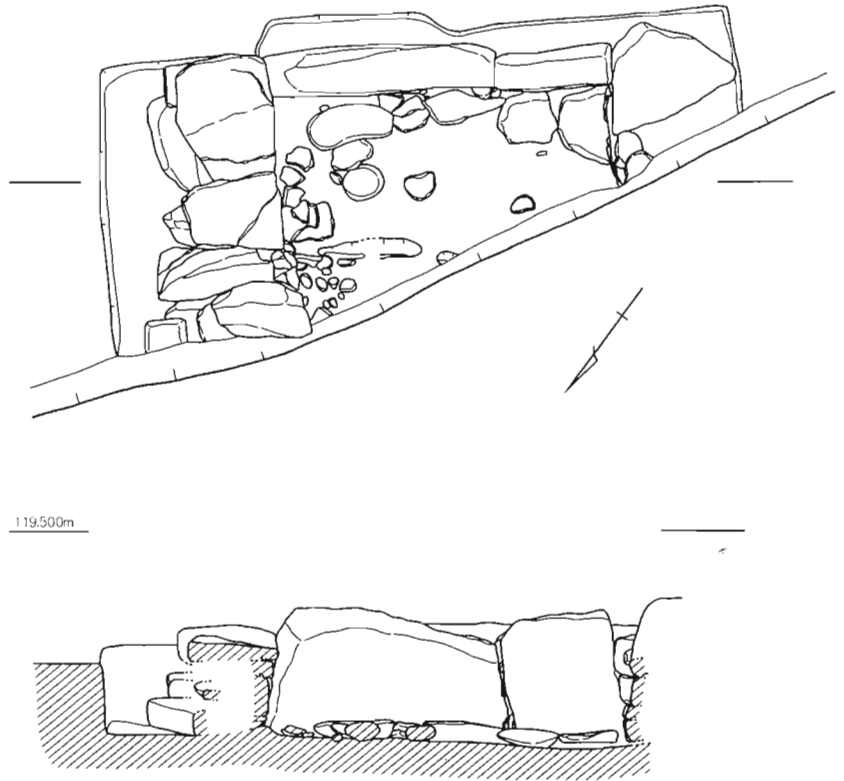


3・4号建物跡

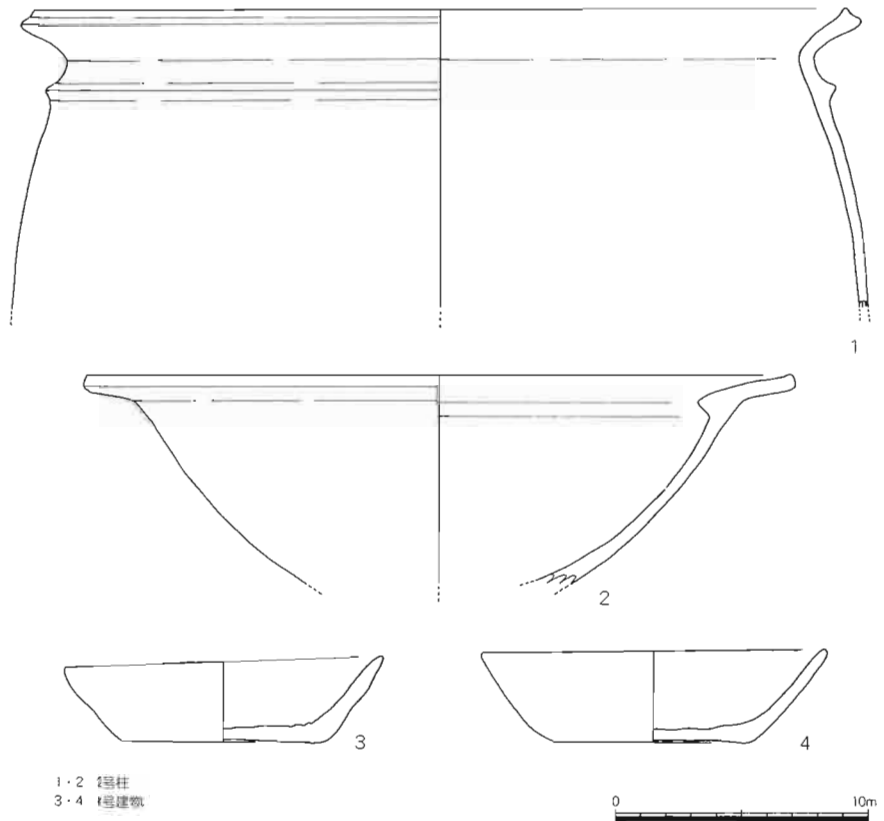
(註) 永田裕久「平島遺跡D地点」『平成9年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 1999年



第1図 遺構配置図 (1/300)



第2図 石室実測図 (1/40)



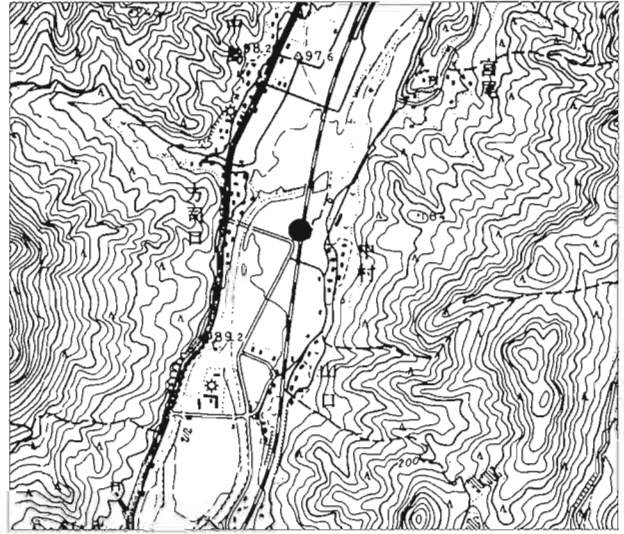
1・2 柱
3・4 柱建物

第3図 出土遺物実測図 (1/3)

6 大肥条里中村地区 (OJ-NM)

—県営担い手育成総合整備事業に伴う発掘調査—

所在地	大字大肥字森田
調査期間	0707～1230
開発面積	(78,000m ²)
調査面積	10,000m ²
調査費	原因者負担
調査年次	1年次
遺跡の時代	弥生・古墳・古代・中世・近世
遺跡の種類	集落・墓地
担当者	行時志郎・吉田博嗣・森山敬一郎



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は日田市西部、大肥川沿いに細長く開けた河岸段丘上に立地する。遺跡より東側丘陵上にはこの地域では唯一箱式石棺墓などが発見されている中村遺跡が存在する。

調査の概要

調査では道路部分 (A区) と切土部分 (B・C区) を対象に3つの地区に分けて行った。

A区では古代の掘立柱建物群6棟のほか、飛鳥から奈良時代にかけての竪穴住居跡4基や5世紀代の包含層や石棺墓、溝状遺構などが検出された。

B区では中世の掘立柱建物群8棟や墓3基、溝状遺構10条、土坑45基、竪穴遺構、鍛冶遺構、水田遺構などが検出された。

C区は遺構検出面が大まかに3つの層に分れ、上層では中世末から近世にかけての掘立柱建物群9棟以上や溝状遺構10条、土坑13基、墓1基、鍛冶遺構が検出され、下層では中世前期の掘立柱建物群9棟、墓6基、土坑25基、溝状遺構16条、竪穴遺構5基、鍛冶遺構、水田遺構などが検出された。最下層からは奈良時代の竪穴住居跡1基、溝状遺構1条、古墳時代前期の溝状遺構1条、弥生時代中期の石棺墓14基、石蓋土壙墓1基、木棺墓22基、小児用甕棺墓6基、祭祀遺構、配石遺構などが検出された。特記すべき遺物としては、下層2号木棺墓より龍泉窯系青磁合子や土師質土器とともに湖州鏡が漆塗りの容器に入って出土し、また1号竪穴遺構近く (包含層) から完形の硯が発見されている。

まとめ

大肥川一帯では、これまで本格的な発掘調査は行われておらず、遺跡については不明な点が多かった。今回の調査では、北部九州で発展する弥生時代の列埋葬やそれに伴う祭祀遺構がこの地域ではじめて確認されたこと、中世の屋敷とみられる溝で区画された中に建物群と墓が上下2層にわたって確認されたこと、この屋敷地の中で鍛冶炉や鉄床石、廃滓場が発見され、敷地内のどのような場所で鍛冶作業を行ったかを傍証する貴重な例となったこと、条里と呼ばれる現在の水田の区画がいつごろつくられ発展してくるのかなどこの調査の意義は限り無く大きい。弥生から近世に至るまでの連続と続く地域の歴史の一端を垣間見る上で貴重な資料が得られたとともに今後の調査を行っていく上での多くの課題を残したといえる。(行時)



A区全景（南方向より）



1号竪穴住居跡



2号竪穴住居跡カマド



A区遺構配置図 (1/400)



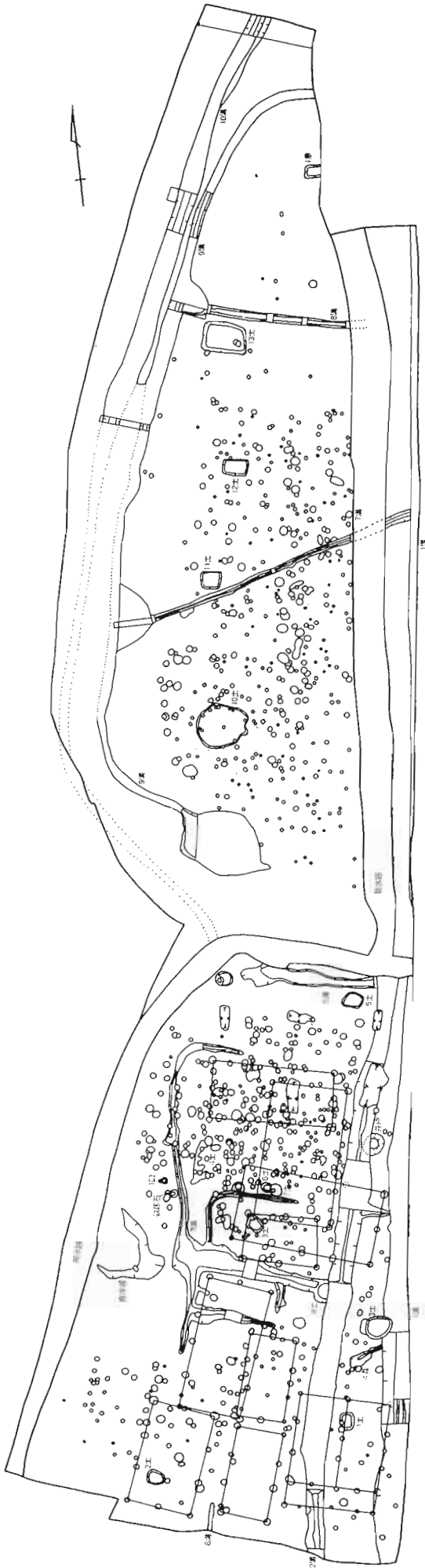
B区全景



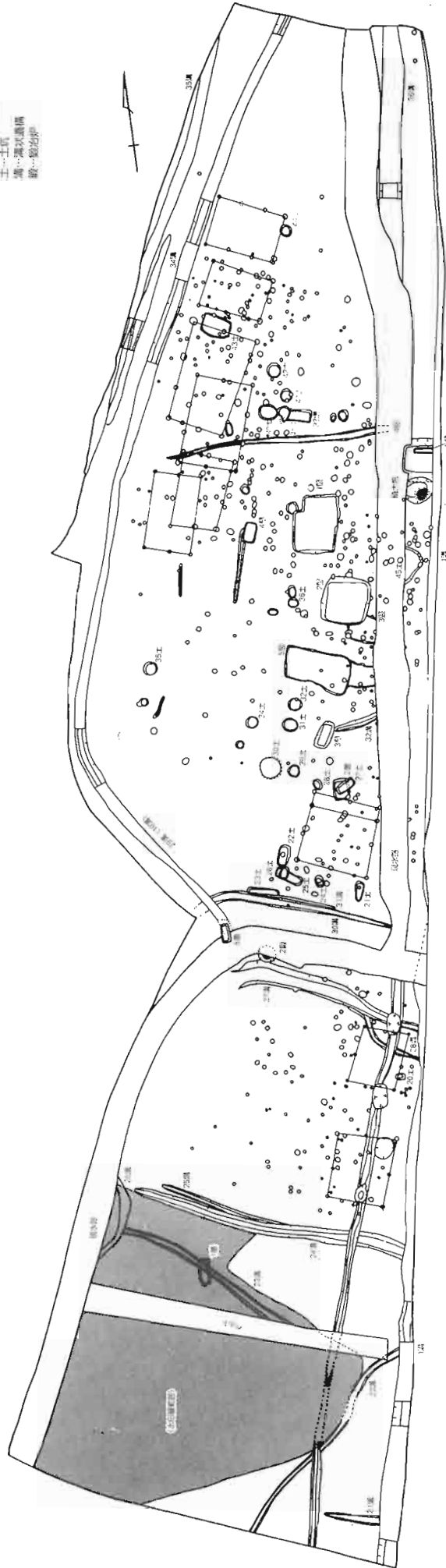
B区南側遺構群



B区遺構配置図 (1/600)



窟…第六遺構
 墓…中世才掘窟
 土…土坑
 溝…溝状遺構
 跡…跡石等



C区上層(上)・下層(下)遺構配置図(1/400)



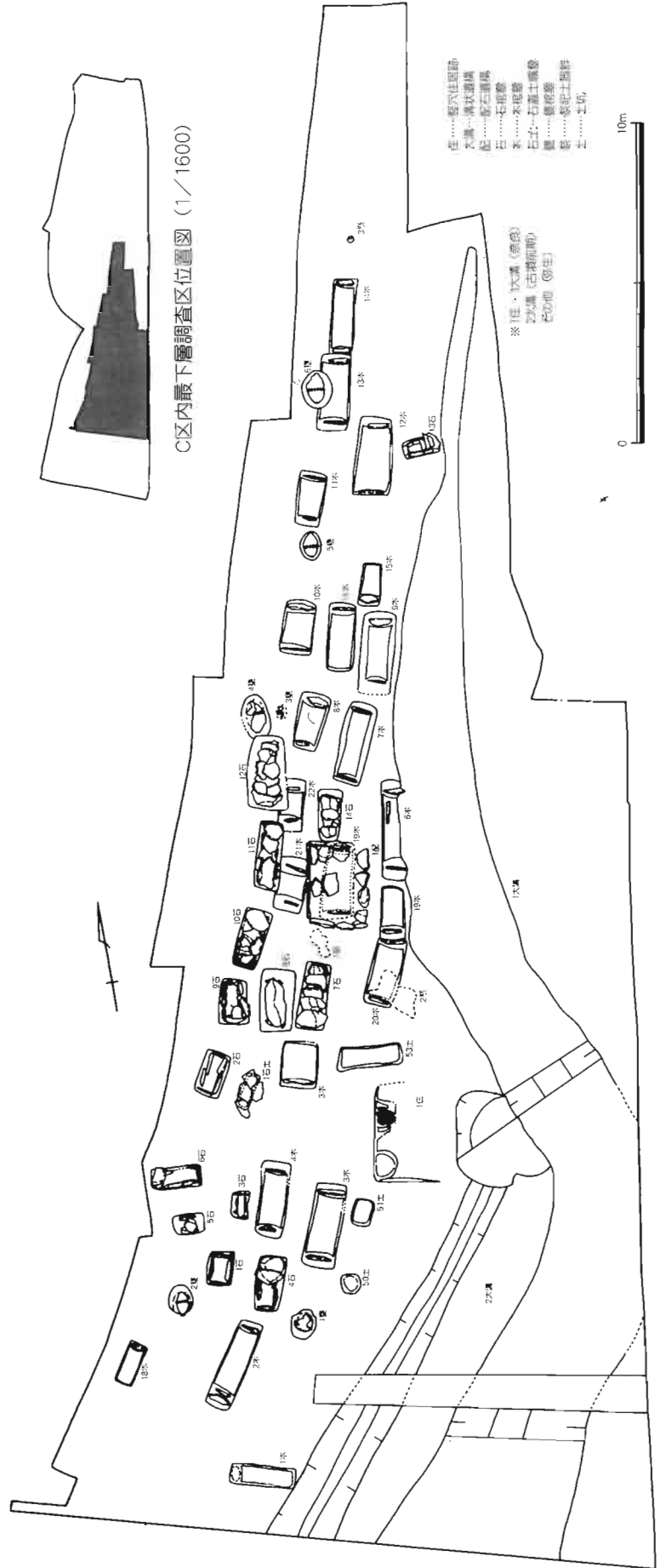
C区上层全景



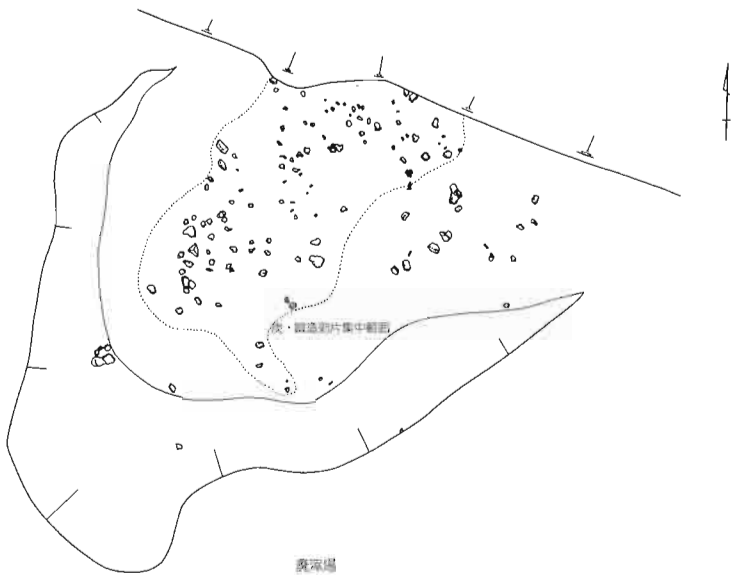
C区下层全景



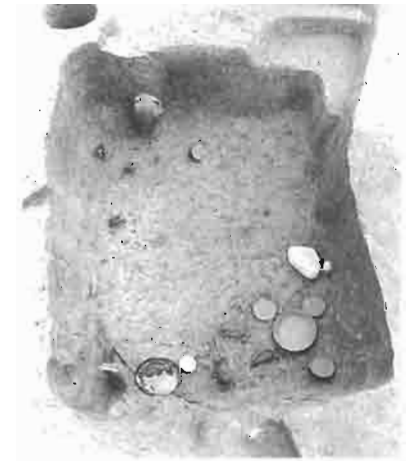
C区最下层弥生墳墓群



C区最下层主要遺構配置圖 (1/200)



C区上層1号鍛冶炉

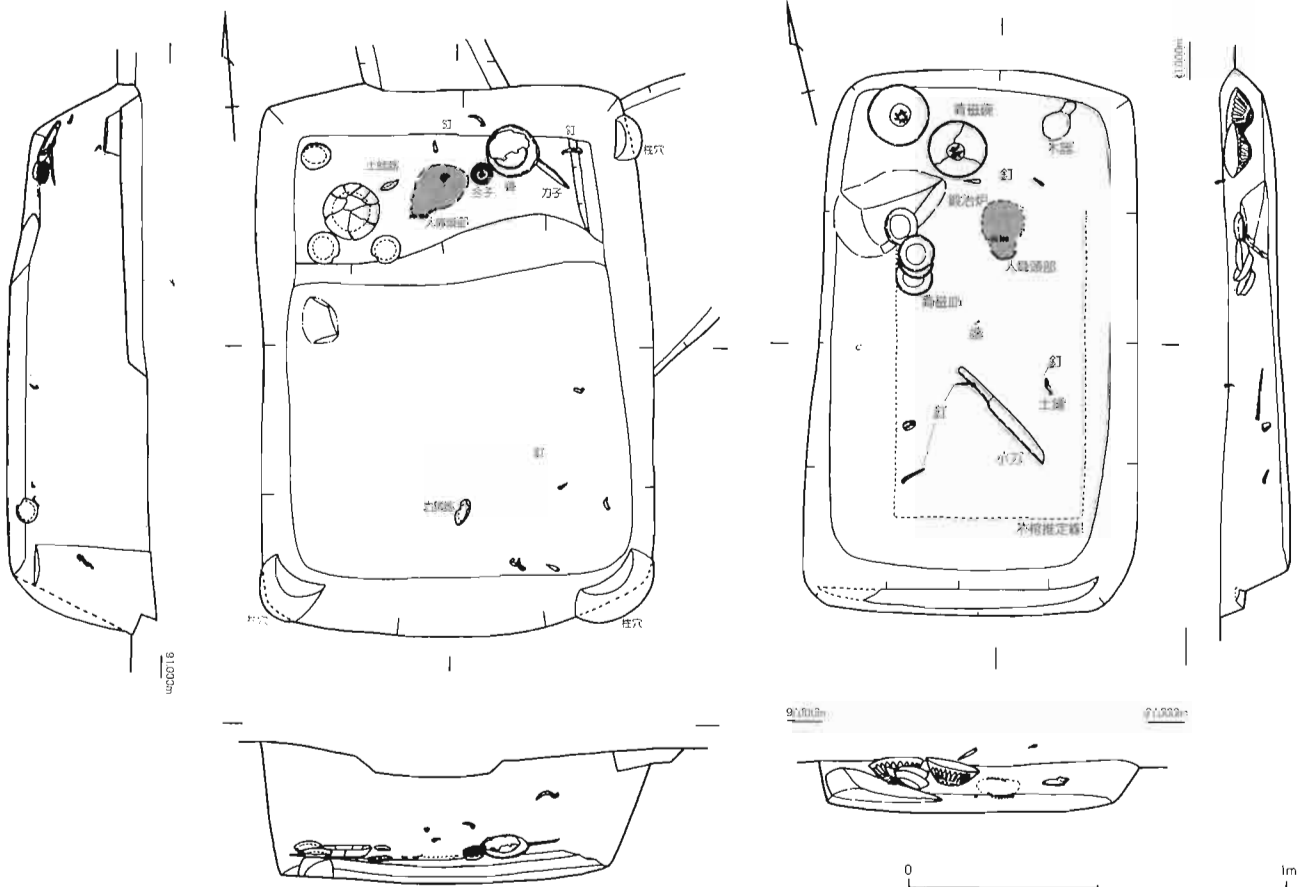


C区下層2号中世墓

0 2m



C区上層鍛冶遺構実測図 (1/60)

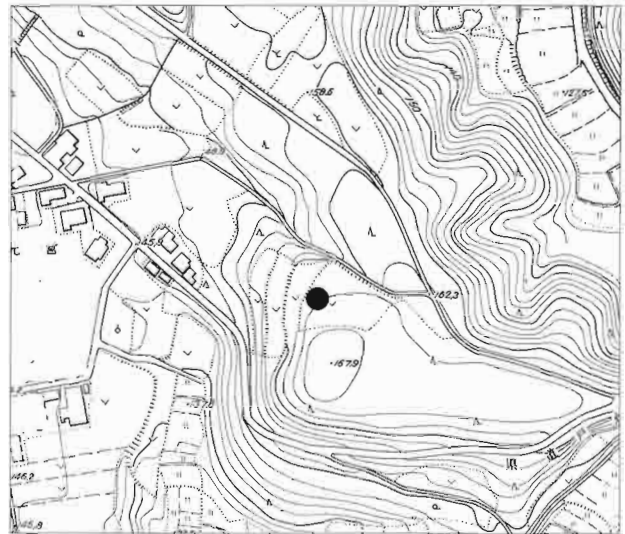


C区下層2号(左)・4号(右)中世墓実測図 (1/20)

7 元宮遺跡 (MTM)

所在地	大字求来里字堂園604
調査期間	0714～0721
開発面積	約500m ²
調査面積	10m ²
調査費	国庫補助
調査年次	1年次
遺跡の時代	弥生・古墳
遺跡の種類	墓地
担当者	土居和幸

—土砂採取に伴う発掘調査—



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部、通称「元宮原」と呼ばれる標高約140mの台地上に位置し、今回の調査地点は遺跡の中にあつては最も高い場所にあたる。遺跡のすぐ西側には会所宮遺跡、南側には法恩寺山古墳群などがある。これまでに元宮遺跡での本格的な調査は実施されていないが、古くは畑地開墾の際に弥生土器の出土や大型成人用甕棺墓・箱式石棺墓などが発見されている。

調査の概要

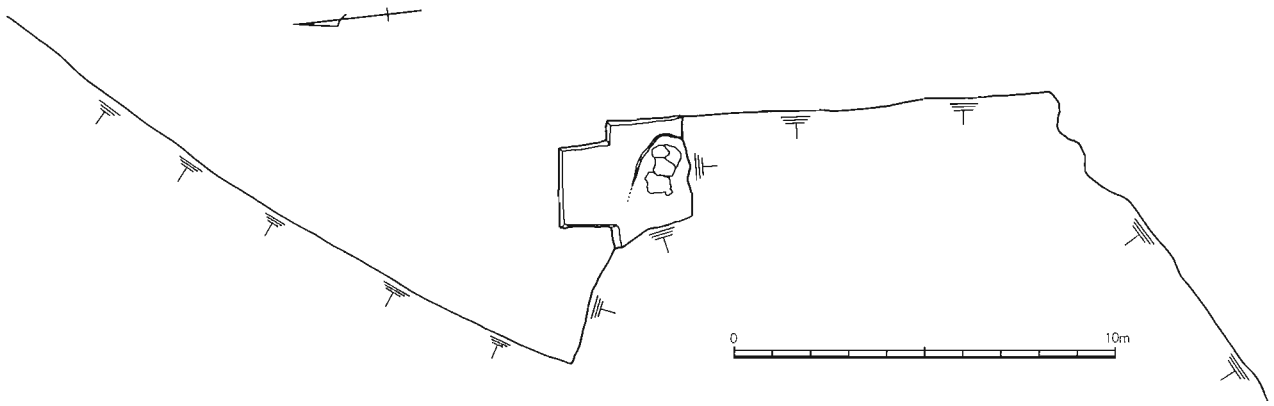
今回調査となった経緯は、所有者が土砂採取工事を実施中に箱式石棺墓の一部を発見したことに始まる。発見の連絡を受け、内部に人骨が残っていることから、緊急の発掘調査となった。

発掘した箱式石棺墓は二段掘りで、3枚の蓋石が残る。棺の頭位は東側にあり、頭位と北側縁辺部には板石を使用しているが、南側側辺部と足位には板石を使用していない。また、棺北側側辺部の上部には横向きに板石を敷いている。棺の長さは推定で140cm、幅は30cm前後を測る。頭位部分には赤色顔料が残り、径15cm程度の円形の小穴が見られた。人骨は頭骨・肋骨・上肢骨・頸椎骨などが残存していた。

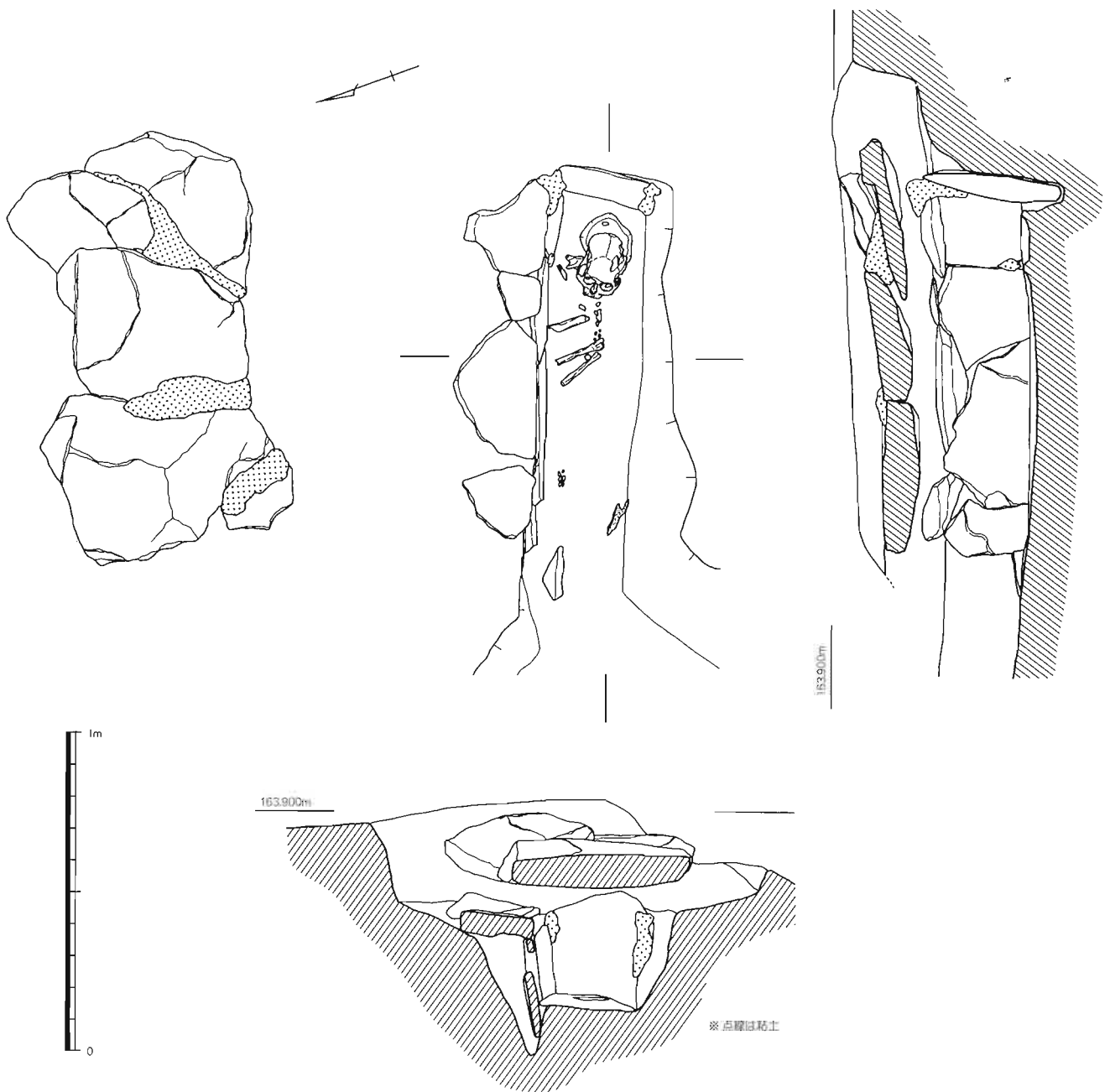
まとめ

これまでに確認されている墓地とは離れた場所での発見となった。部分的な調査のため墓地の年代や様相ははっきりしないが、今後継続調査が予定されていることから、調査の進展で具体的な事実が明らかになるであろう。





第1図 調査地点位置図 (1/200)

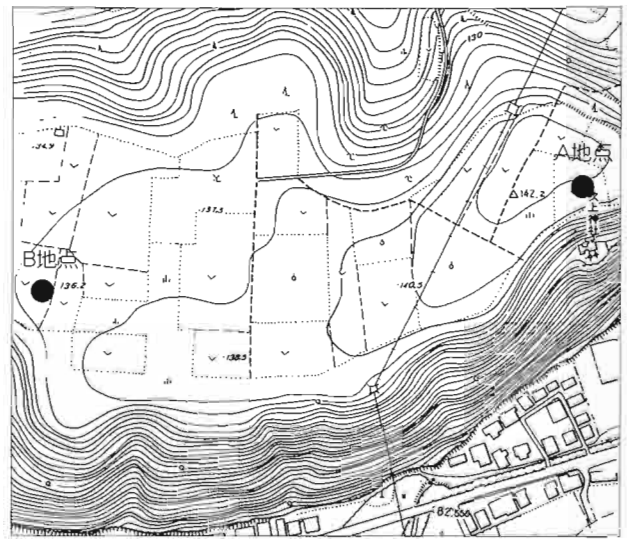


第2図 1号箱式石棺墓実測図 (1/20)

8 吹上遺跡 (FKA)

—遺跡の範囲確認調査—

所在地	大字小迫字吹上原194
調査期間	0822～0831
開発面積	—
調査面積	291m ²
調査費	国庫補助
調査年次	9年次
遺跡の時代	弥生
遺跡の種類	集落跡・墓地
担当者	土居和幸・下村智



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は三隈川支流の花月川と二串川に挟まれた標高140mの阿蘇溶岩台地上に立地する。日田盆地の北を限る台地上にあり、直接市街地と接する位置にあたる。平地との比高差は50mで、上面観はL字状を呈する独立した台地を形成する。平成7年度に行われた6次調査では、弥生時代中期後半に属する甕棺墓8基、木棺墓3基から、細形銅剣・銅戈・貝輪・玉類など豊富な副葬品が発見され、特定集団墓の存在が明らかになった。

調査の概要

9次調査は、これまでの調査成果を受け、吹上遺跡の保存対策を検討する目的で、遺跡の全容把握のための確認調査として実施した。調査区は2ヶ所設定し、吹上神社上の眺望の利く台地部をA地点、台地西側の2・4次調査区の近くをB地点とした。A地点からは、弥生時代前期後半～末の袋状貯蔵穴2基、中期初頭の袋状貯蔵穴3基、井戸状の不明遺構1基、その他ピット群などが検出された。貯蔵穴の中には底径が3mを超える大型のものも存在した。B地点は10m×20mの範囲を面的に調査した。これまでの調査で付近に墓地が確認されていたので、墓地の存在も考慮して調査を進めた。検出された遺構は、弥生時代前期後半～末の袋状貯蔵穴2基、土坑2基、中期初頭の袋状貯蔵穴2基、土坑2基、竪穴住居跡1基、中期前半の袋状貯蔵穴1基、土坑10基、竪穴住居跡1基、中期後半～末の土坑2基、成人用甕棺墓4基、小児用甕棺墓4基、木棺墓2基、土壙墓2基、後期前半の甕棺石棺併用墓1基、石蓋土壙墓1基などである。その他、時期ははっきりしないが、竪穴遺構1基、土坑4基、溝2条、ピット群などがある。

まとめ

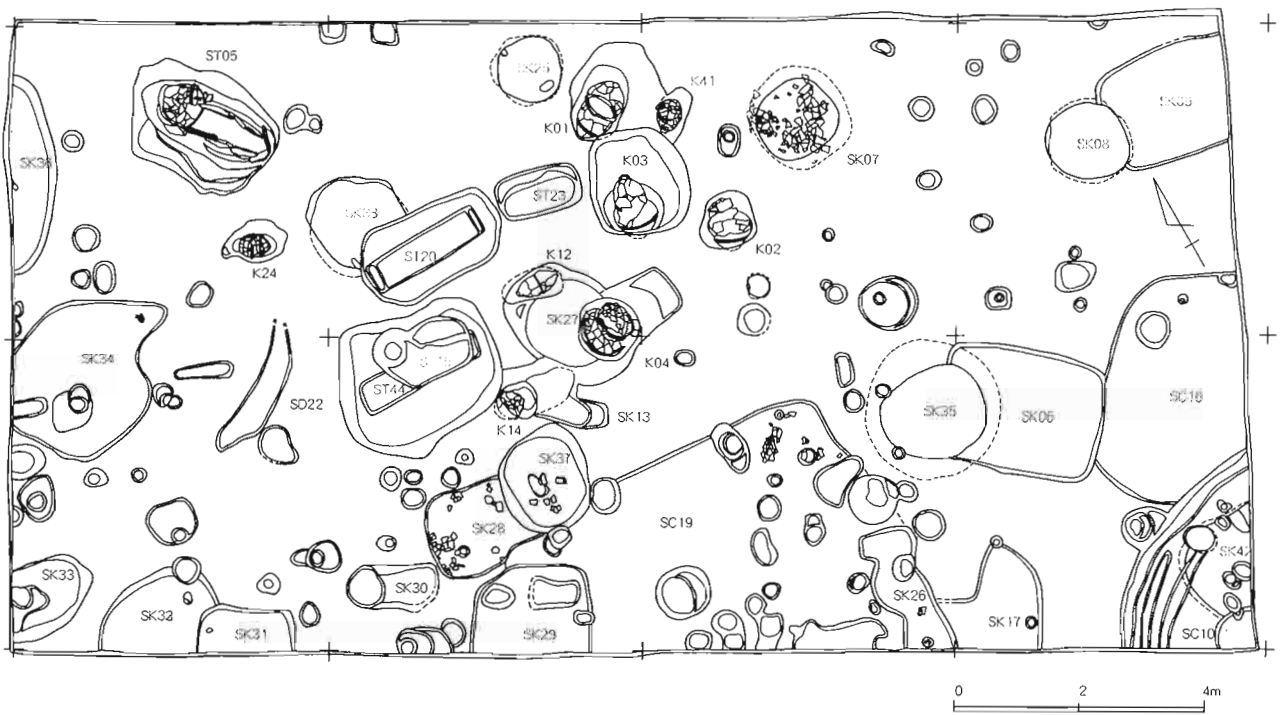
今回の確認調査では、台地東端部まで袋状貯蔵穴を中心とする生活遺構の広がりが明らかになった。B地点では、弥生前期後半から中期前半に属する袋状貯蔵穴や方形・円形竪穴住居跡が発見され、同時期の集落が確認できた。中期後半代以降になると墓地が形成され、木棺墓や甕棺墓が営まれる。甕棺墓には、口縁打ち欠きの壺型土器や跳ね上げ口縁を有する大型の甕が使用されるなど地域的特色を示し注目される。(下村)



K01甕棺墓出土狀況



ST05甕棺石棺併用墓出土狀況



吹上遺跡第9次B地点遺構配置圖 (1/120)

9 上ノ馬場遺跡 (KNB)

—住宅造成に伴う発掘調査—

所在地	大字北田字上ノ馬場1032-1
調査期間	0803～0822
開発面積	1,092㎡
調査面積	400㎡
調査費	原因者負担
調査年次	1年次
遺跡の時代	古墳・中世
遺跡の種類	集落
担当者	行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地東部にあり、丘陵裾部より盆地中心部へ向かって緩やかに傾斜する沖積微高地上に位置する。眼前の丘陵上には中世の日田を治めた大蔵氏の城館跡が聳え、その裾部一帯には古代から中世にかけての多数の遺構が発見された慈眼山瀬戸口遺跡が存在する。

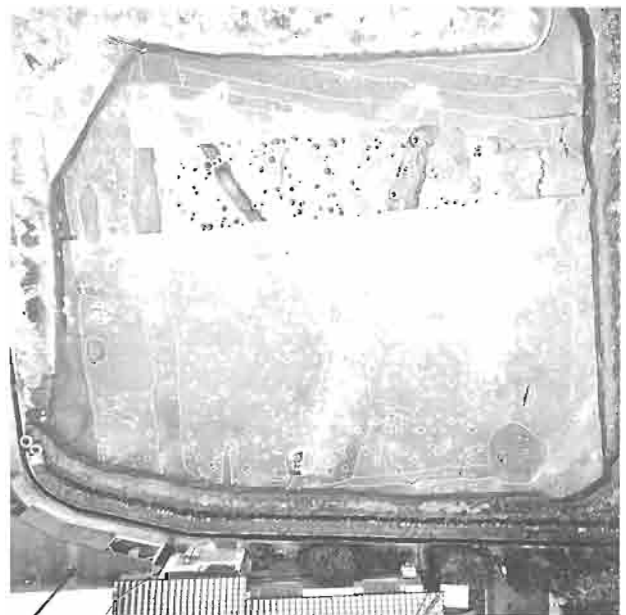
調査の概要

調査は道路予定地については全面調査を実施し、宅地部分についてはおもに道路より南側全体の遺構検出を行い、主要なものについては確認調査を行った。

調査の成果として、調査区内からは多数の柱穴とともに井戸跡や土坑(16基)、溝状遺構(11条)などが検出された。遺物はそれぞれの遺構の中から多量の土師器とともに少量ではあるが輸入陶磁器、陶器、瓦質土器、硯、銅銭、鉄滓なども見られた。時期は出土遺物から大まかに2時期に分れ、4・5・7号溝が古墳時代、その他は中世末～近世前期にかけての遺構と考えられる。

まとめ

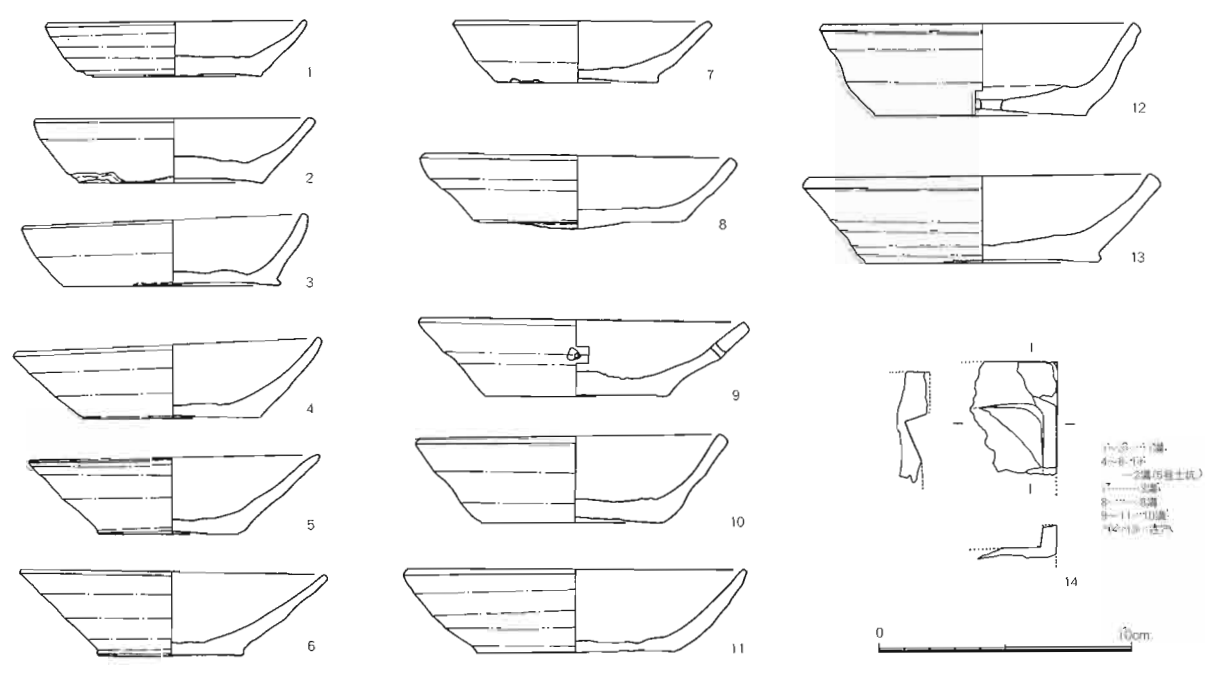
中近世の溝状遺構のうち1・2・10号は遺物から時期差があるように思えるが、1・2号溝は上面で確認した時点で切り合い関係はなく、1号溝を越えて西へは展開しないので同一時期と推測される。1号溝は調査区南端で東へカーブする様子が見られることから、10号あるいは11号と繋がる可能性が高く、そうなればこれらの溝は建物群を「コ」の字状に囲むよう意識的に掘られた溝として考えることができそうである。小迫辻原遺跡では「ロ」の字に建物群を囲む環溝が調査されており、今後の比較資料として検討していきたい。



遺跡全景



上ノ馬場遺跡遺構配置図 (1/200)

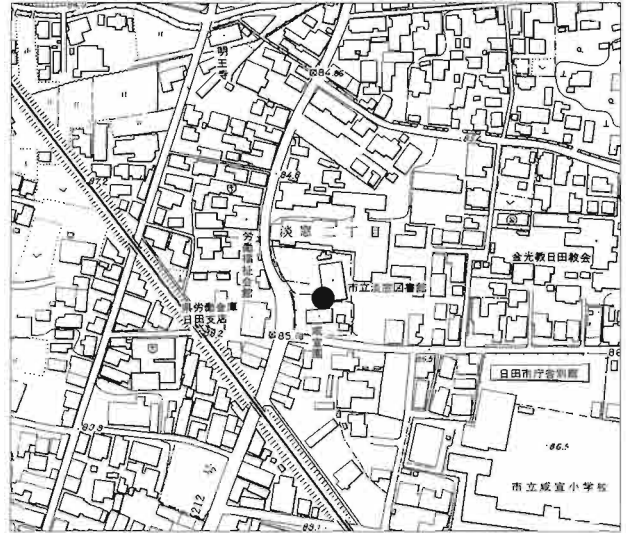


出土遺物実測図 (1/3)

10 史跡咸宜園跡（KAG）

－史跡整備に伴う確認調査－

所在地	大字南豆田字中城100-1
調査期間	0928～0210
開発面積	－
調査面積	120㎡
調査費	国庫補助
調査年次	6年次
遺跡の時代	近世
遺跡の種類	塾跡
担当者	土居和幸



遺跡位置図（1/5,000）

遺跡の位置

史跡咸宜園跡は日田市街地のほぼ中央に位置している。この咸宜園は文化14年に広瀬淡窓が開いた私塾で、明治30年にその幕が終るまでの間、全国から約5000人が入門している。昭和7年には国史跡に指定され、史跡内に残る秋風庵などの施設の老朽化に伴ってその修復や史跡の整備を目的に平成4年度から継続的な発掘調査を実施している。

調査の概要

6年目にあたる今回の調査は、遠思楼施設の当初建設場所の確認と秋風庵の裏に残る風呂・トイレ施設の復元を目的とし、前者の調査区を1区、後者の調査区を2区とした。

1区では礎石と考えられる河原石とその掘り方を2つ検出した。これらが当時の咸宜園塾に関連した施設の一部かどうかははっきりせず、次年度に調査区を拡張して確認することとした。

2区ではトイレ状遺構1、風呂遺構2、トイレ遺構（大小便器各1）が確認された。

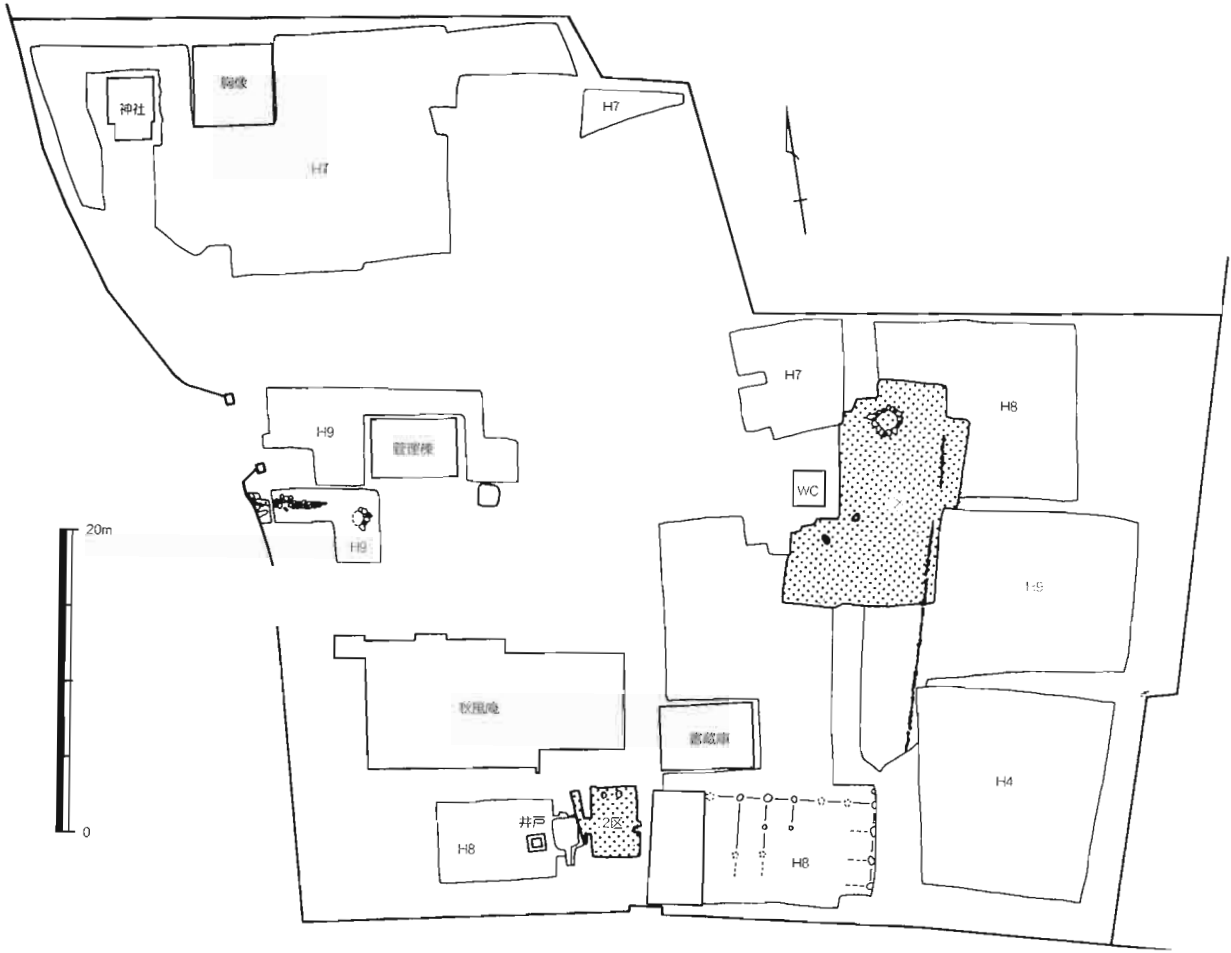
まとめ

1区の礎石は遠思楼施設に伴う可能性があり、このことについては次年度拡張し、再度確認する必要がある。

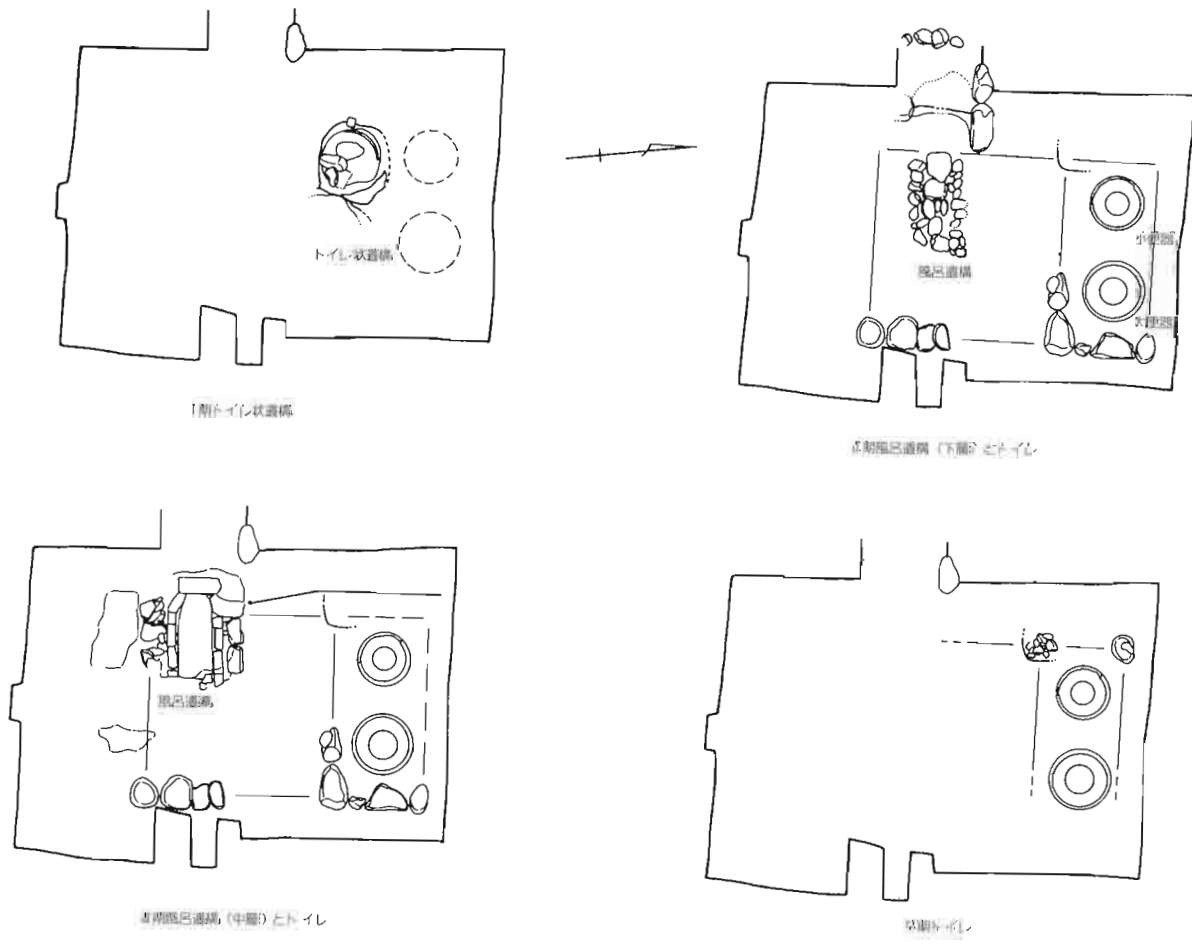
また、2区の各遺構は第2図のような変遷が考えられ、I期は昭和以前、II～IV期は昭和時代以降の所産であろう。



咸宜園



第1図 調査地点位置図 (1/500)

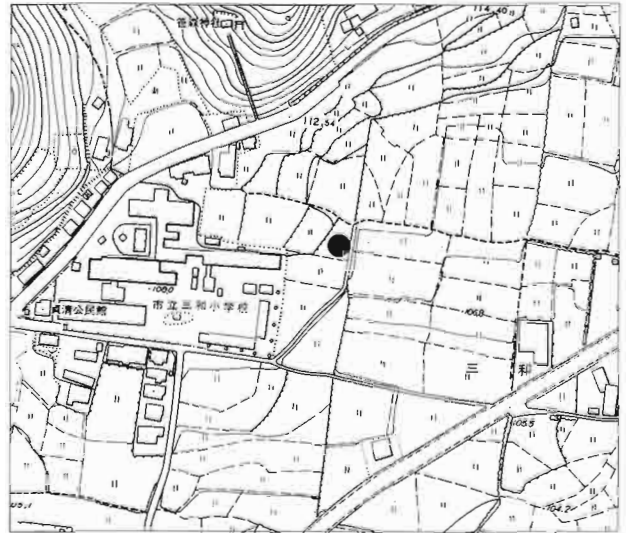


第2図 2区遺構変遷図 (1/80)

11 三和教田遺跡D地点 (MKD-D)

—住宅造成に伴う発掘調査—

所在地	大字三和字鮎町960-1ほか
調査期間	1212～1223
開発面積	2,099㎡
調査面積	372㎡
調査費	原因者負担
調査年次	4年次
遺跡の時代	旧石器～中世
遺跡の種類	集落跡・墓地
担当者	土居和幸・森山敬一郎



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は花月川右岸の標高約110mほどの低丘陵上に位置する。遺跡のすぐ背後には通称「山田原」と呼ばれる市内では最も発達した台地が控えている。この台地上には後迫遺跡や用松中村古墳が存在し、花月川を挟んでは葛原遺跡や葛原古墳が対峙している。この遺跡ではこれまでに3回の調査が行われていて、旧石器時代から中世にかけての複合遺跡であることが確認されており、なかでも弥生時代後期には環濠集落が営まれ、古代には円面硯の出土などから官衙的な施設の存在も推定される。

調査の概要

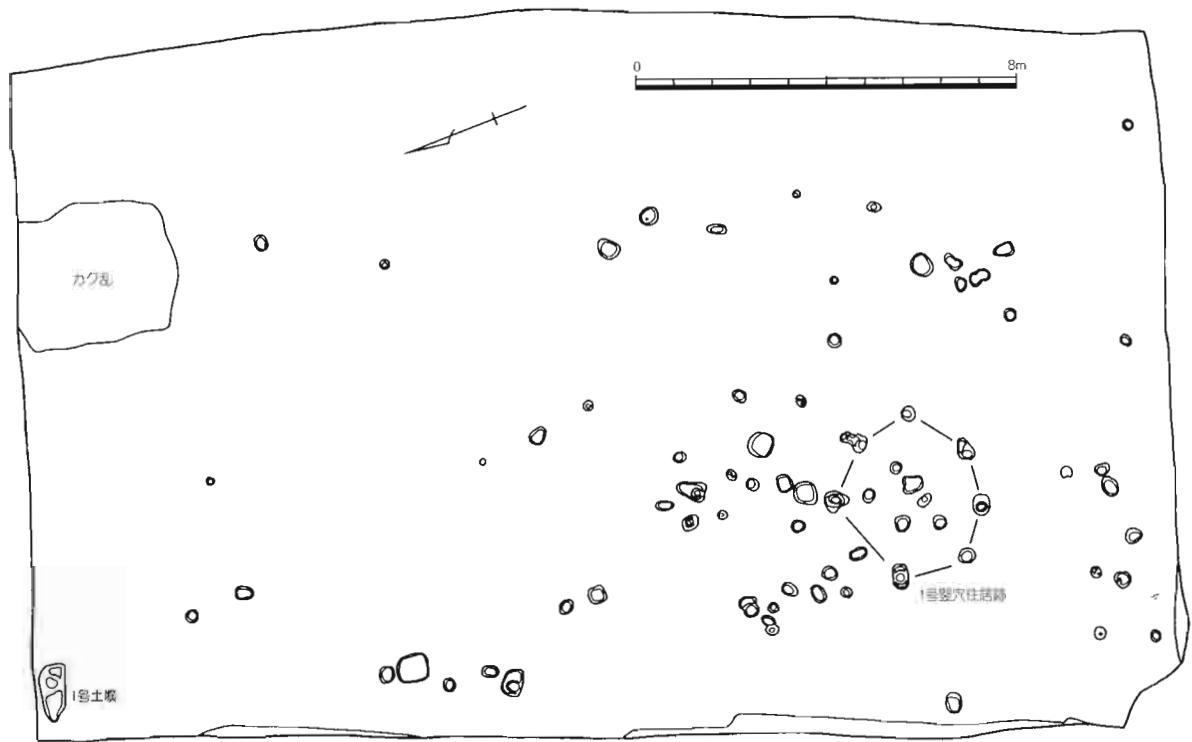
今回の調査地点は2次調査として行ったB地点の東側隣接地にあたる。遺跡のほぼ中心とみられるB地点では、各時代の遺構や遺物が集中して発見されていただけに今回の調査地点でも密な遺構の検出が想定された。調査ではこうした予想とは裏腹に、近代における水田開発によって遺構面の大半が削平を受けていて、弥生土器や須恵器、石器などは数多く出土するものの遺構ののこりは少なかった。調査において検出した遺構は弥生時代の竪穴住居跡1基、土坑1基、柱穴である。また、遺物は弥生土器などのほか、旧石器時代のナイフ形石器や2次加工剥片が出土している。

まとめ

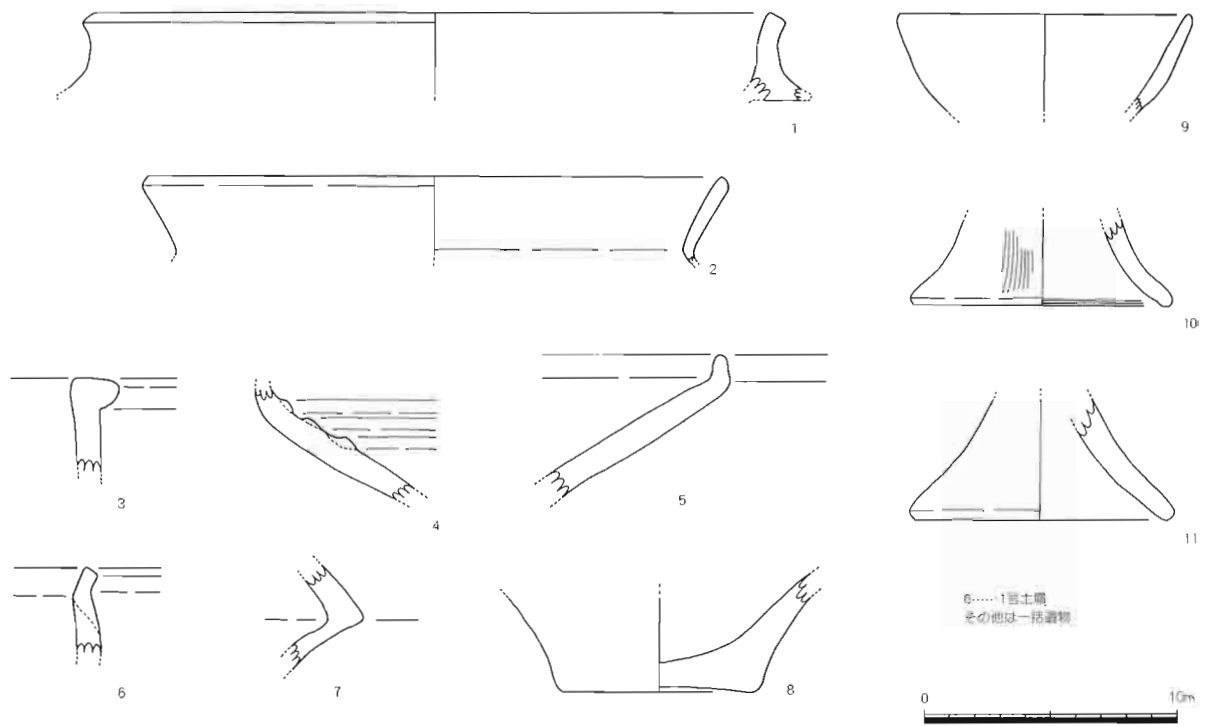
検出した竪穴住居跡は壁面などは残っておらず、円形に巡る主柱穴のみであった。土器は小片であるため時期の特定は難しいが、弥生時代中期の範疇でおさまりそうである。また土坑については後期の所産と考えられる。(土居)



1号竪穴住居跡



第1図 遺構配置図 (1/160)

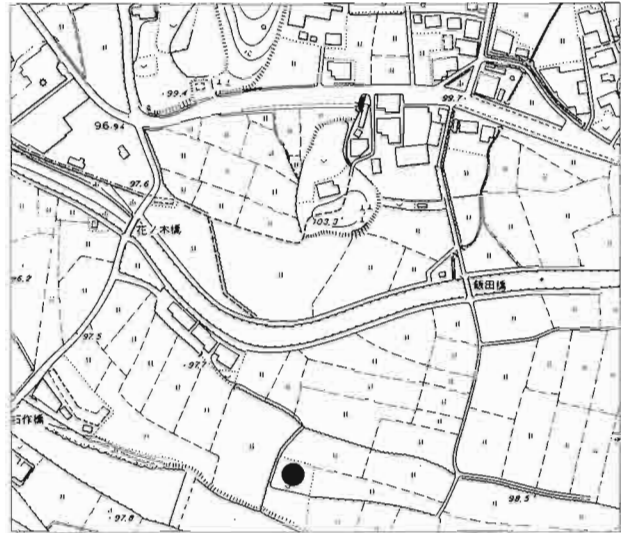


第2図 出土土器実測図 (1/3)

12 川原田遺跡 (KWH)

—広域農道建設に伴う発掘調査—

所在地	大字西有田字川原田2979-1ほか
調査期間	1217～0330
開発面積	(4,642㎡)
調査面積	360㎡
調査費	原因者負担
調査年次	1年次
遺跡の時代	古墳・古代・中世・近世
遺跡の種類	集落・墓
担当者	吉田博嗣・森山敬一郎
※ ()	は広域農道有田工区の全体工事面積



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

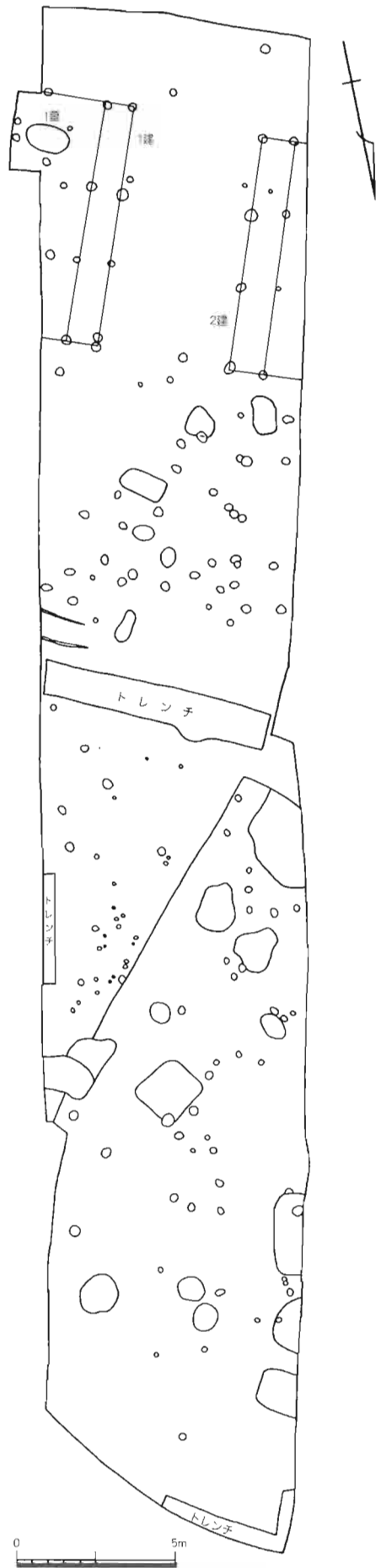
遺跡は日田市東部の石松川、有田川に形成された中洲の微高地上に位置する。周辺には佐寺原遺跡、佐寺横穴墓群などが知られている。

調査の概要

調査では、掘立柱建物跡2棟が確認されたほか堅穴遺構1基、中世墓1基、土坑8基、柱穴などが検出された。南北方向に梁を持つ庇付の建物跡が並列して2棟確認された。建物跡は柱穴から出土した土師器から中世の時期に収まるものである。1号墓からは、小刀1点・鉄器5点・白磁碗1点が出土した。人骨は西側で歯の一部が、また東側では大腿骨あるいは腓骨の一部が遺存していた。墓坑底部は頭部の位置に30cm大の石を配しているほか3～5cm程度の河原石が一面に敷き詰められていた。埋葬時期は出土した白磁碗(IV-1a類)から11世紀後半～12世紀代と考えられる。

まとめ

調査の結果、南側では河川の氾濫により砂礫が全体を覆っていたがその下面には遺構が遺存していた。また、北側では一段低い位置にあるため遺構の多くは残りが良くなかった。中世墓については調査区の制約から墓地の広がりを確認することはできなかったが時期的、位置的にも近い森ノ元遺跡2号中世墓(12世紀後半代・小刀、青磁碗、青磁皿)や尾漕遺跡1～3号墓(14～15世紀)などの例をみる限り集団墓としての可能性は低いと思われる。墓葬制の面では時期的にも近い森ノ元中世墓と比較したとき墓坑形態や埋葬方法など全く異なっているがこのことは階層的なものなのか時間的な問題であるかは理解できない。本遺跡における生活痕跡は縄文時代後期の土器が出土しており市内では数少ない低地での発見例である。今回、わずかではあるが黒色土器が出土している。有田川下流域の日田条里上手地区(平成9年度調査)でも黒色土器が出土していることや、青磁器(13世紀～14世紀)および土師質土器(15～16世紀)などが発見されている。同様な立地の遺跡が(どちらも河川の影響を受けやすい条件)似た様相を見せていることは古代から中世期における集落の在り方を考える意味で重要である。(吉田)



川原田遺跡遺構配置図



遺跡全景



1号墓遺物出土状況

13 内ノ下遺跡 (UCN)

— 広域農道建設に伴う発掘調査 —

所在地	大字西有田字内ノ下1305-1ほか
調査期間	1217~0330
開発面積	(4,642㎡)
調査面積	2,570㎡
調査費	原因者負担
調査年次	1年次
遺跡の時代	縄文・弥生・古墳・古代・中世・近世
遺跡の種類	集落
担当者	吉田博嗣・森山敬一郎
※ ()	は広域農道有田工区の全体工事面積



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は日田市東部の石松川、有田川に形成された低位沖積地に存在する。周辺には佐寺原遺跡、佐寺横穴墓群などが知られている。

調査の概要

調査区東側に北側から伸びる残丘に沿って柱穴が確認されたほか、地形は西側に緩やかに傾斜し南北方向に様々な時期の溝を検出した。遺構は弥生時代の円形、方形プランの竪穴住居跡が各1基ずつ確認された。近世の溝は調査区内で見る限り残丘の裾を巡り周囲の水田に供給していたのではないかと考えられる。中世期の8号溝は略東西方向で調査区と直交するかたちで検出された。溝からは五輪塔の宝珠部（風・空輪部）、水輪部（梵字）のほか土師質土器（坏）が出土しており、出土遺物から埋没時期は15世紀後半～16世紀前半頃と思われる。弥生時代の7号溝は調査範囲において弧を描く部分がわずかに検出されたが構築された周辺の地形などを考慮すると環濠としての可能性も考えられる。

調査の結果、竪穴住居跡2基、竪穴遺構、土坑4基、溝8条、溝状遺構などが確認されており、出土遺物は縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・黒色土器・輸入陶磁器・近世陶磁器が出土した。

まとめ

調査区南側（1・2区）では遺物は確認されているが全体に河川の影響による礫が覆っていたこともあり遺構は存在しなかった。地形が西側に下りているため溝の多くは同位置、同方向で確認され居住地は東側に集中して検出された。生活痕跡は遺物から推測すると縄文時代晩期から認められる。このような現象（盆地内低地での発見）は徳瀬遺跡、三和教田遺跡など近年確認される例が増えている。その後、弥生時代後期、古墳時代後期～古代、中世へと人々は生活の場として当地を選地してきたことが明らかである。（吉田）



遺跡全景

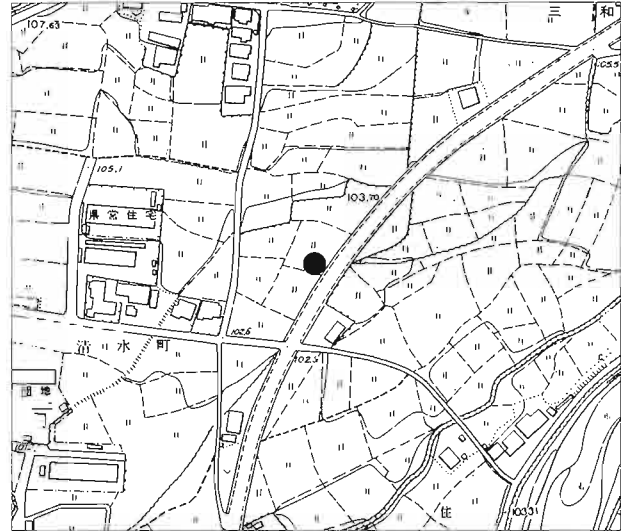


1・2号溝（左より）検出状況

14 三和教田遺跡E地点 (MKD-E)

—店舗建設に伴う確認調査—

所在地	大字三和字貞清
調査期間	0104～0109
開発面積	833m ²
調査面積	38m ²
調査費	国庫補助
調査年次	4年次
遺跡の時代	縄文・弥生
遺跡の種類	旧河道
担当者	土居和幸・若杉竜太



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は盆地北部の花月川中流域左岸、標高103m前後の後背湿地状に位置する。これまで三和教田遺跡では数回にわたって調査が行われ、B地点では弥生時代後期中頃～後半や古墳時代・中世の遺構・遺物が発見されている。また、C地点では大分県下最大級の土偶や木製品が出土している。

調査の概要

調査は15m×2m (第1トレンチ)、4m×2m (第2トレンチ) のトレンチを設定し、人力による掘り下げを行った。その結果、第1トレンチより溝状遺構を検出した。また、第2トレンチでその溝状遺構内に流れ込んだ流木や木製品が出土した。土器は縄文時代後～晩期のものが中心で、この他磨製石斧などが出土した。

まとめ

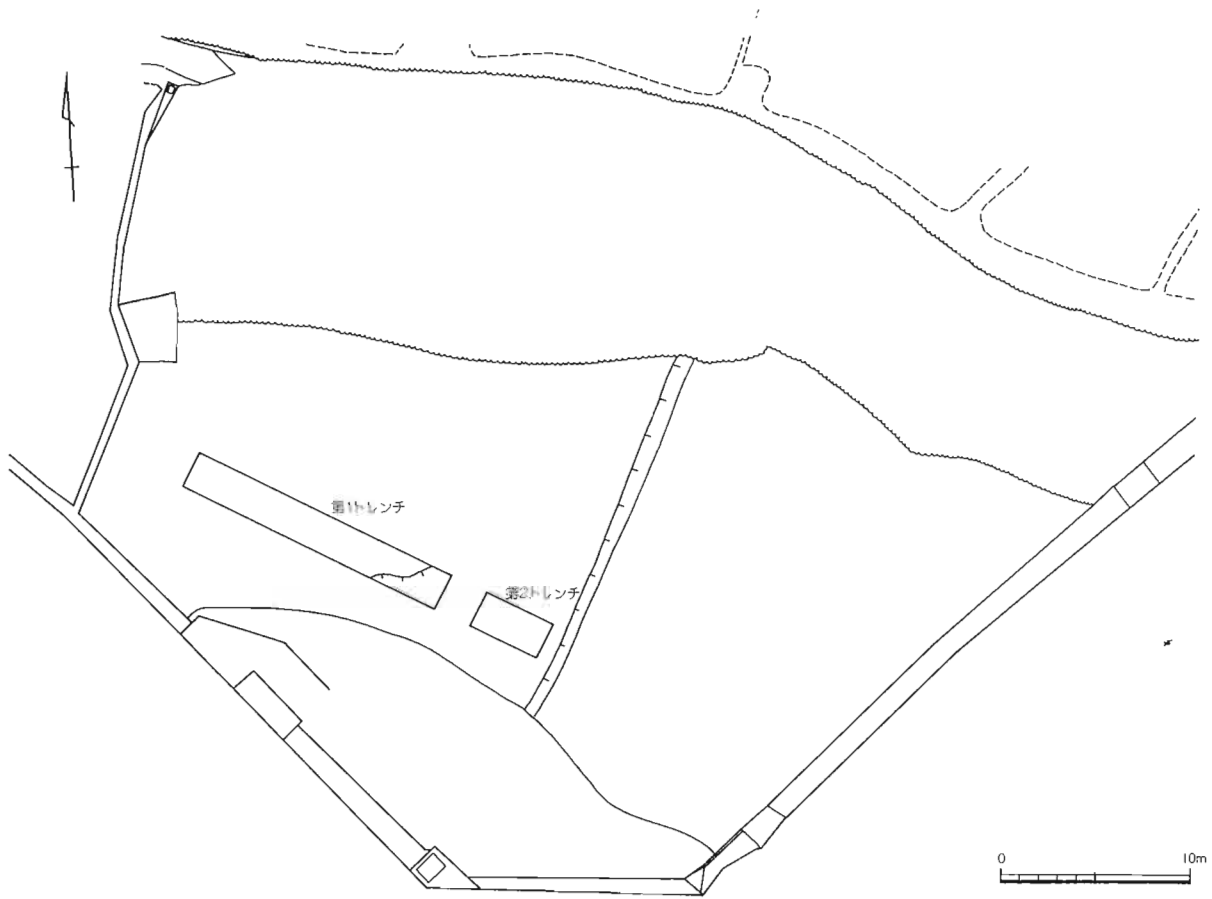
今回の調査で旧河道が検出されたことから、この時期において花月川が現在の流れとは異なる流路であったことが確認された。当遺跡の性格を把握する上で重要な発見であるといえよう。(若杉)



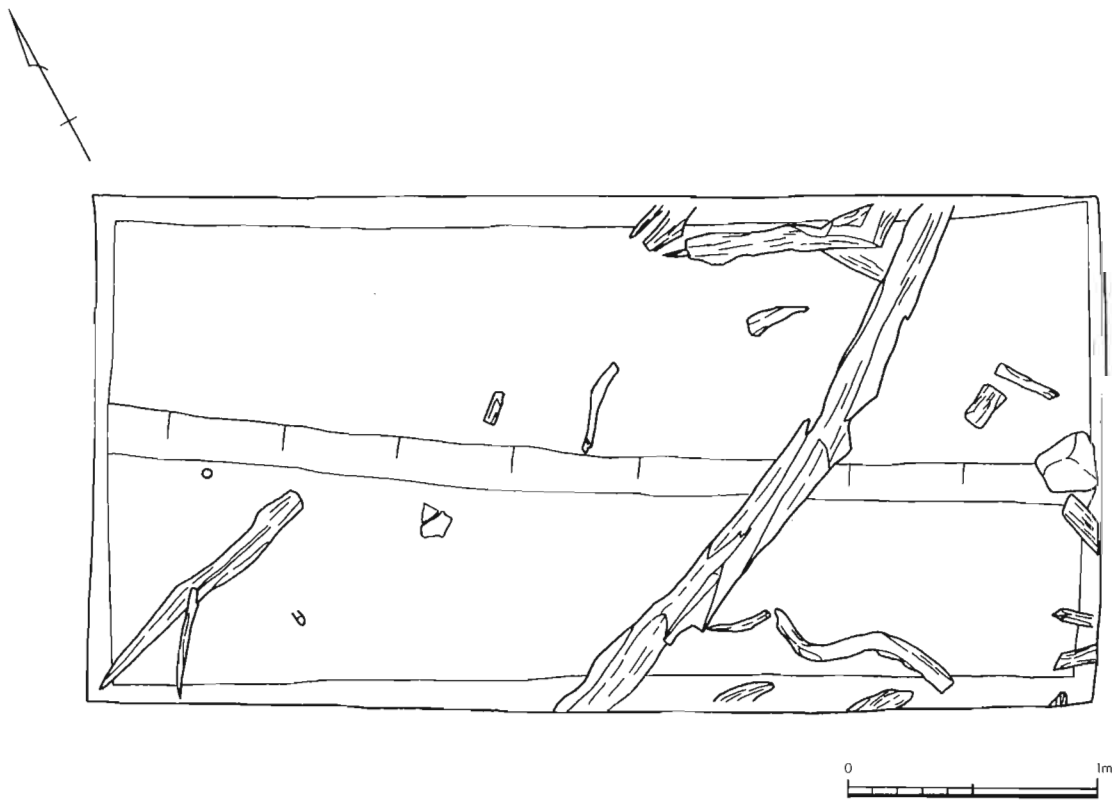
第1トレンチ遺物出土状況 (北東から)



第2トレンチ遺物出土状況 (南東から)



周辺地形測量図 (1/400)

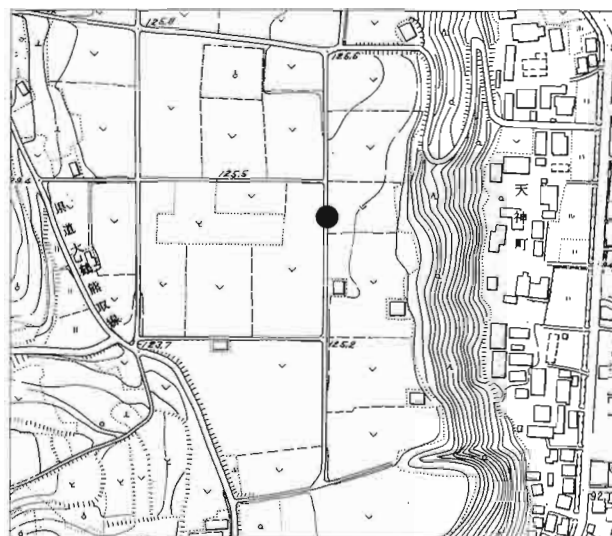


第2トレンチ平面図 (1/30)

15 後迫遺跡 (USZ)

—山田原地区畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査—

所在地	大字三和(里道)
調査期間	0118～0323
開発面積	(17,600m ²)
調査面積	600m ²
調査費	原因者負担
調査年次	1年次
遺跡の時代	弥生・古墳・奈良
遺跡の種類	集落・墓地
担当者	行時志郎・若杉竜太
※()	は山田原畑総全体面積



遺跡位置図(1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は日田盆地北部の通称山田原台地の東端部に位置する。標高は約125mである。周辺の遺跡には草場第1遺跡や台地東崖面には羽野横穴墓群などが存在する。

調査の概要

調査の結果、弥生時代、古墳時代、奈良時代の遺構・遺物が多数発見された。

弥生時代の遺構としては竪穴住居跡や袋状貯蔵穴・土坑が検出された。竪穴住居跡からは須玖式土器や磨製石斧、石庖丁の未製品などが出土した。また、袋状貯蔵穴からは城ノ越式の甍底部などが出土した。

また、古墳時代前期の石棺4基を検出し、このうち3基には人骨が残存していた。石棺内部には赤色顔料が塗布され、2号石棺からは管玉4点が出土した。

この他奈良時代の掘立柱建物2棟が検出された。いずれも桁行は4間あり、大型の建物であったことが推察される。この他、小竪穴1基を検出した。

まとめ

隣接する九州横断自動車道建設に伴う調査地点では、弥生時代中期～後期の竪穴住居跡を中心とする集落が発掘されており、当遺跡は弥生時代中期を中心とした大規模な集落であったことが推察される。今回の調査地点の遺構からは、前期末の土器が出土していることから、前期末から中期にかけて集落が存在する。これ以後、古墳時代の住居跡が検出されていないことから一旦集落はなくなり、古墳時代に入っては墓地として選定されたのであろう。その後、奈良時代に再び集落が営まれている。付近に存在する羽野横穴墓群との関係など、古墳時代の集落がどこに存在していたかという問題が今後の課題となろう。(若杉)



遺跡全景（上空南から）



石棺発掘状況（上空から）

16 天満古墳群 2次 (TNM-2)

— 遺跡の範囲確認調査 —

所在地	大字小迫字天神山1854ほか
調査期間	0222～0327
開発面積	—
調査面積	6,050㎡(測量面積)
調査費	国庫補助
調査年次	2年次
遺跡の時代	古墳
遺跡の種類	墓地
担当者	土居和幸・下村智



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

天満古墳群は、日田盆地北部の標高約120mの通称宮原台地上に位置している。沖積地からの比高差は40mで、古墳を含む周辺一帯は朝日宮ノ原遺跡が存在し、東側の小支谷を挟んだ台地には小迫辻原遺跡が存在する。

調査の概要

天満古墳群は前方部を向かい合わせに築造された2基の前方後円墳で構成されている。昨年度2号墳の確認調査が実施され、復元長約60m、2重の周溝が多角形にめぐると特異な形態が明らかにされた。今回は、30m東側に位置する1号墳の墳丘および周辺地形の測量調査を行った。1号墳は主軸をほぼ東西にとり、前方部は西を向く。復元長33m、後円部径22m、高さ2m、前方部長11m、前方部幅は14m程度になるものと考えられる。後円部が大きく、短い前方部がつき、南側のくびれ部は明瞭でない。古墳の南側は急激な崖になっており、北側は幅4m前後の平坦面が広がり、さらに1.5m程の段差になっている。現況では周溝は確認できない。後円部は昭和3年の天満社の建設で大きく破壊されている。内部主体は横穴式石室と伝えられ、天井石が社殿東側に放置されている。壁体を構成していたと考えられる扁平な石材は、社殿の礎石や東端部の石垣に利用されている。

まとめ

社殿建設で破壊されており、石室内から仿製変形五獣鏡、鉄刀、金銅製馬具(貝製雲珠、鏡板、杏葉、辻金具)、須恵器(坏、高坏、器台、埴、提瓶)、土師器など豊富な遺物が出土している。墳丘規模の割には副葬品の質が高く、被葬者を考える上で参考となる。現在でも境内で鉄鍬片などが採集され、地元談によればさらに多くの鉄製品が出土したという。今後、墳丘規模の確認とともに、分散所有されている遺物の調査も進めていかなければならない。(下村)



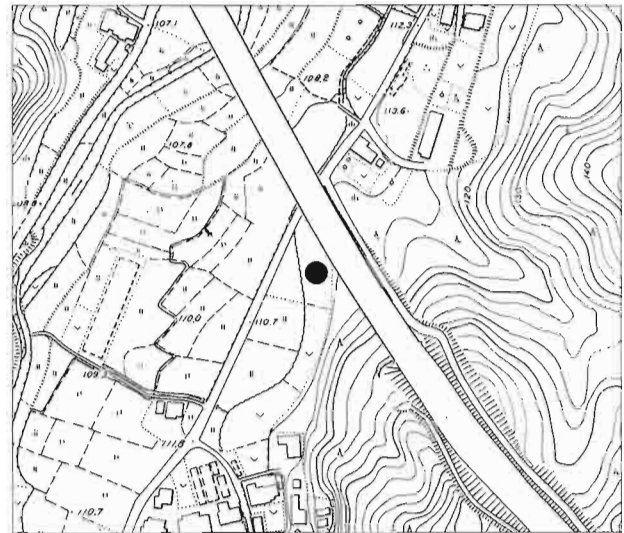
天満1号墳墳丘測量図 (1/250)

17 尾漕遺跡6次（OKG-6）

—市道田島有田線建設に伴う発掘調査—

所在地	大字有田字三森1036-1
調査期間	0226～0331
開発面積	(32,271m ²)
調査面積	610m ²
調査費	原因者負担
調査年次	1年次
遺跡の時代	古墳・奈良・中世・近世
遺跡の種類	集落
担当者	土居和幸・若杉竜太・森山敬一郎

※（ ）は市道田島有田線全体工事面積



遺跡位置図（1/5,000）

遺跡の位置

遺跡は求来里川右岸の沖積地上の丘陵西麓に位置する。周辺には遺跡の丘陵上に尾漕2号墳や有田塚ヶ原古墳群、長迫遺跡などが存在する。

調査の概要

調査の結果、古墳時代の竪穴住居跡1基、奈良時代の竪穴遺構1基、中世から近世にかけての掘立柱建物、その他土坑が多数発見された。

古墳時代の竪穴住居跡は一辺約5.2mで、住居北側にカマドを据え付けていた。支脚は甕の口縁を打ち欠いて、これを上に向けて据えられていた。出土した須恵器から6世紀後半の時期が与えられる。

中世から近世にかけての掘立柱建物は12棟あり、主軸を北東—南西方向にとる。遺物としては蓮弁文をもつ青磁碗や寛永通宝などが出土した。

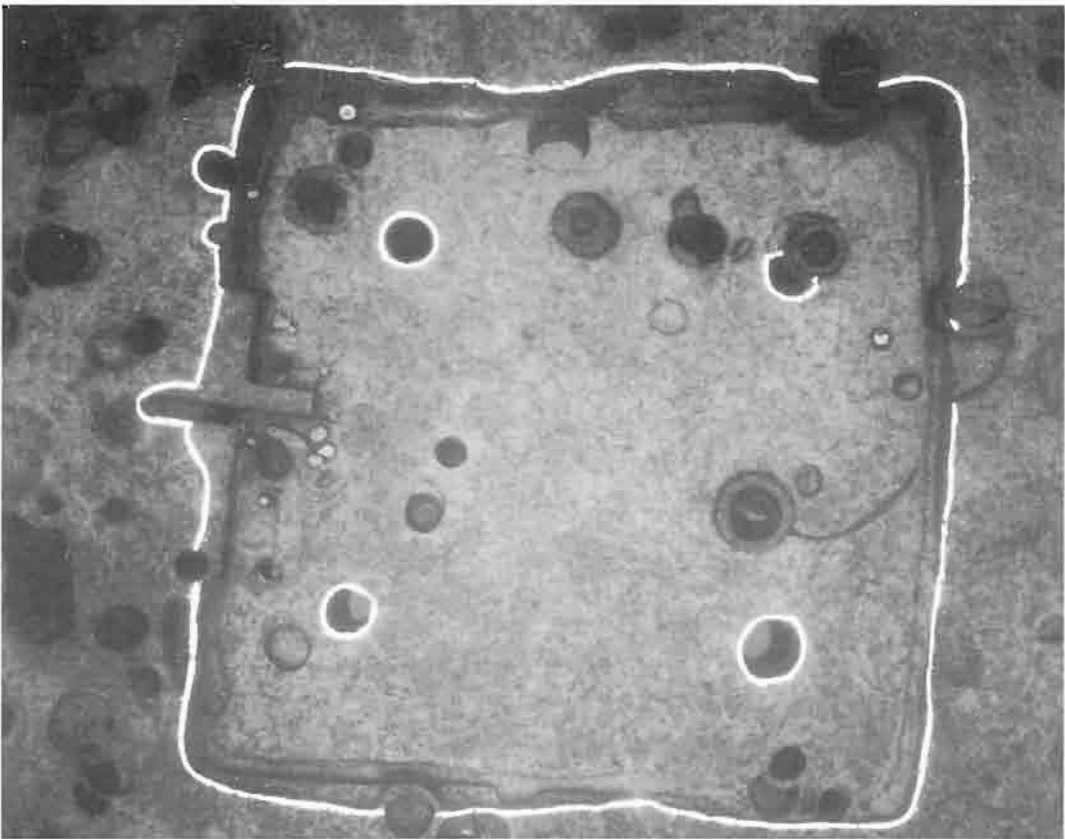
まとめ

調査では古墳時代後期の竪穴住居跡が一軒発見されたが、遺跡背後の丘陵上に位置する古墳やその他の集落遺跡と深く関わるものと考えられる。古墳では同様の時期に横穴式石室を有する有田塚ヶ原1号墳が存在する。また、丘陵上からその谷部にかけて存在する長迫遺跡A・B地点などでは、6世紀後半の竪穴住居跡が発見されている。カマドの型式も同様のものが多いことから、当遺跡の住居もこれらの集落の一端であったことが十分考えられよう。

中世から近世の掘立柱建物群も多数検出され、この地が耕地として開発される前まで集落が長期間にわたって存在していたことが考えられる。(若杉)



遺跡全景（上空から）

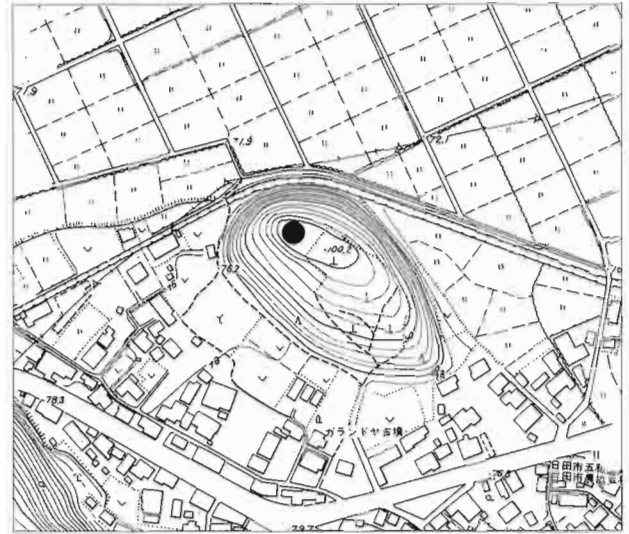


1号住居跡全景（上空から）

18 隈山遺跡 (KMY)

—墓地造成に伴う発掘調査—

所在地	大字石井字熊山1190
調査期間	0316～0331
開発面積	約200㎡
調査面積	200㎡
調査費	国庫補助
調査年次	1年次
遺跡の時代	中世
遺跡の種類	墓地
担当者	土居和幸



遺跡位置図 (1/5,000)

遺跡の位置

遺跡は盆地南東の三隈川左岸段丘上に残る独立した丘陵頂部に位置する。標高約100mのこの丘陵は、市内に点々と見られる自然の浸食作用によって形成された残丘の一つで、丘陵斜面は急傾斜となっており、頂部付近の平坦な場所は現在墓地として利用されている。古くはこの丘陵から縄文時代の土偶片が出土している。この丘陵の南側裾には、装飾古墳として知られているガランドヤ古墳群が存在している。

調査の概要

調査は個人の墓地造成に先立ち開始したが、すでに今回の調査地点に隣接した場所では土師器や五輪塔の一部などが散乱した状況で認められ、今回の調査地点内においても墳墓に伴う地表施設等の存在が十分に考えられることから、地表施設等の確認を目的に進めた。調査では風倒木の除去や草刈りを行うと、自然石に混じっては土師器片や五輪塔の一部、河原石などが散乱した状態で発見された。調査は年度末ということもあって、現状を把握することにとどめ、空中写真を撮影して、次年度に継続することとした。

まとめ

調査地点の現況をまとめると、調査区内の地表面下には墓が存在すると考えられ、地表面に散在する五輪塔の一部や河原石は墓に伴う地表施設とみることができそうである。こうした複数存在すると推定される墓の年代は、採集した土師器から中世後半頃(15～16C)に該当しそうである。

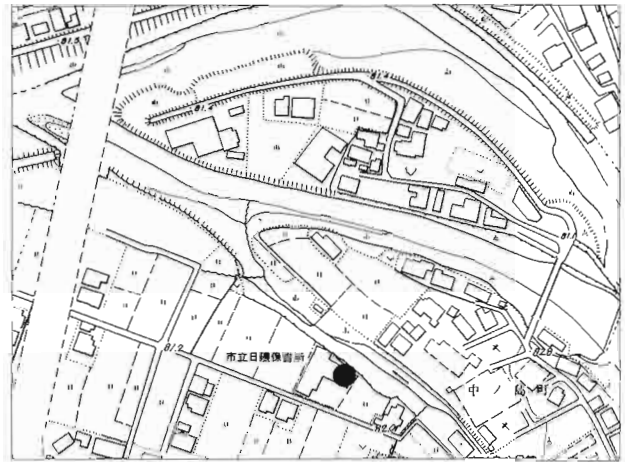


遺跡全景

3) 試掘調査・立会調査の概要

19 村前遺跡

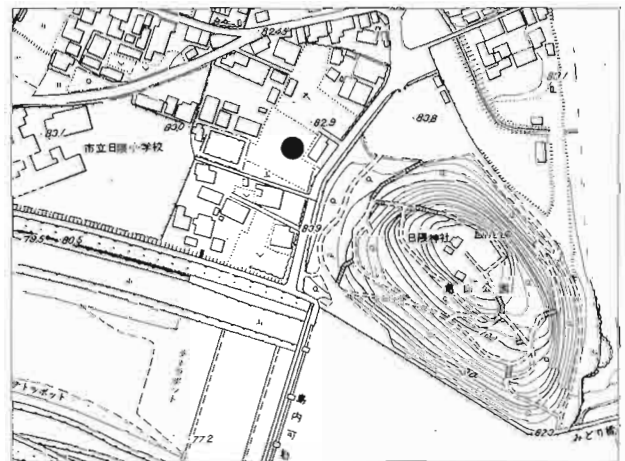
所在地	大字庄手字村前183-1
調査期間	0427
開発面積	1,042m ²
調査面積	10m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	溝
出土遺物	—
遺跡の時代	中世
遺跡の種類	集落
処置	盛土保存により工事実施
担当者	行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

20 日隈城隣接地

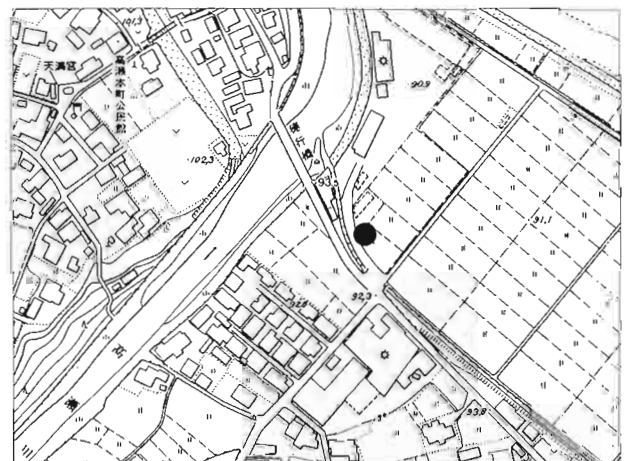
所在地	大字庄手字日ノ隈592-1
調査期間	0501
開発面積	1,575m ²
調査面積	40m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑・柱穴
出土遺物	弥生土器・土師器
遺跡の時代	弥生
遺跡の種類	集落
処置	工事実施
担当者	行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

21 大宮遺跡隣接地

所在地	大字高瀬字小シマ1014-1
調査期間	0520
開発面積	523m ²
調査面積	10m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	なし
出土遺物	なし
遺跡の時代	—
遺跡の種類	—
処置	工事実施
担当者	行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

22 山田原遺跡

所在地	大字渡里(里道)
調査期間	0521~0523
開発面積	(17,600) m ²
調査面積	92 m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	溝
出土遺物	土師器・須恵器・染付
遺跡の時代	弥生・奈良・近世
遺跡の種類	集落・墓地
処置	工事実施
担当者	土居和幸

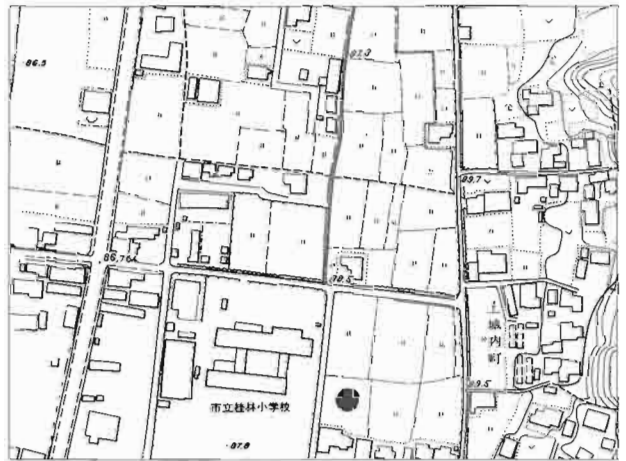
※ () は山田原畑総全体面積



遺跡位置図 (1/5,000)

9 日田条里隣接地 (後に上ノ馬場遺跡)

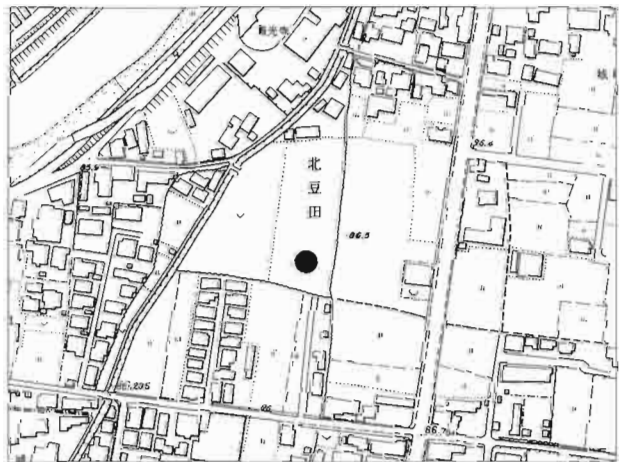
所在地	大字北豆田字上ノ馬場1032-1
調査期間	0612
開発面積	1,092 m ²
調査面積	20 m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	溝・土坑・柱穴
出土遺物	土師器・陶磁器
遺跡の時代	中世
遺跡の種類	集落跡
処置	発掘調査実施
担当者	行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

23 日田条里下村地区

所在地	大字北豆田字下村506-2
調査期間	0625
開発面積	1,088 m ²
調査面積	10 m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	なし
出土遺物	土師器
遺跡の時代	—
遺跡の種類	—
処置	工事実施
担当者	行時志郎

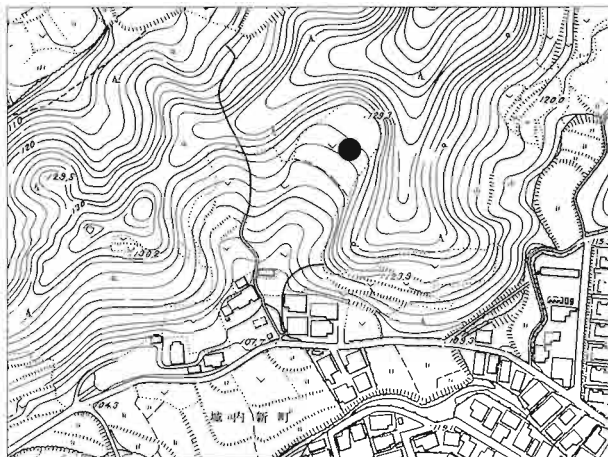


遺跡位置図 (1/5,000)

24 赤迫遺跡隣接地

所在地	大字北豆田字扇畑1486
調査期間	0729
開発面積	2,872m ²
調査面積	35m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	なし
出土遺物	須恵器・土師器
遺跡の時代	—
遺跡の種類	—
処置	工事実施
担当者	行時志郎

※ () は市道田島有田線全体工事面積



遺跡位置図 (1/5,000)

25 ハル遺跡隣接地

所在地	大字羽田字ハル
調査期間	0820
開発面積	(58,000m ²)
調査面積	110m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	柱穴・土坑
出土遺物	土器片
遺跡の時代	中・近世?
遺跡の種類	集落跡
処置	工事実施
担当者	土居和幸

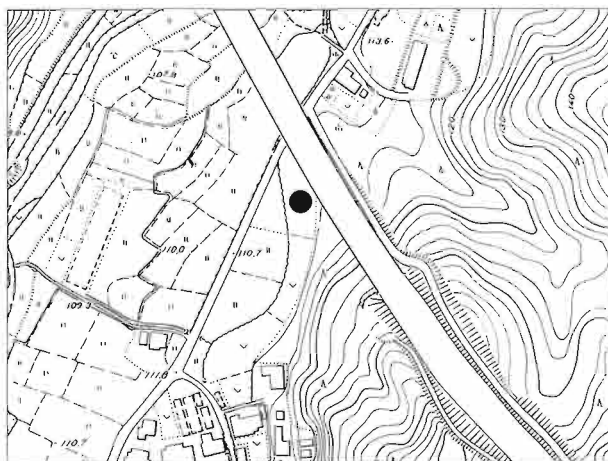


遺跡位置図 (1/25,000)

17 尾漕遺跡

所在地	大字有田字三森1036-1
調査期間	0921
開発面積	(32,271m ²)
調査面積	50m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	なし
出土遺物	なし
遺跡の時代	—
遺跡の種類	—
処置	工事実施
担当者	土居和幸

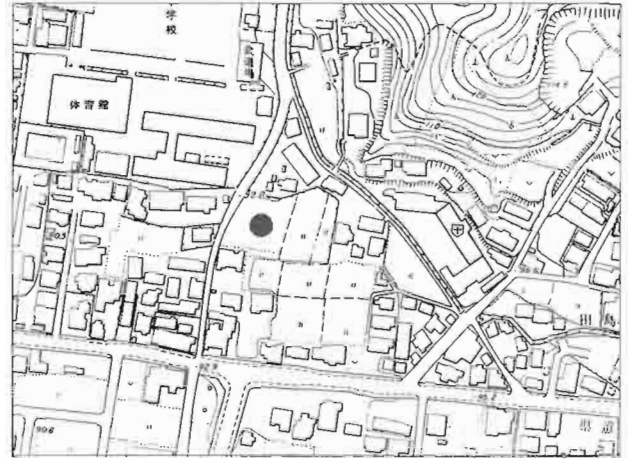
※ () は市道田島有田線全体工事面積



遺跡位置図 (1/5,000)

26 会所宮遺跡

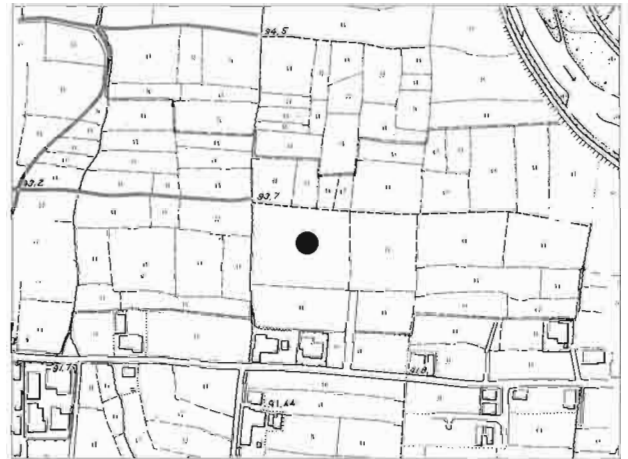
所在地 大字田島字中ノ手
 調査期間 1005
 開発面積 1,495㎡
 調査面積 20㎡
 調査費 国庫補助
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 遺跡の時代 —
 遺跡の種類 —
 処置 工事実施
 担当者 土居和幸



遺跡位置図 (1/5,000)

27 日田条里

所在地 大字西有田字シミドウ205-3
 調査期間 1104
 開発面積 946㎡
 調査面積 12㎡
 調査費 原因者負担
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 遺跡の時代 —
 遺跡の種類 —
 処置 工事実施
 担当者 行崎志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

28 八田遺跡隣接地

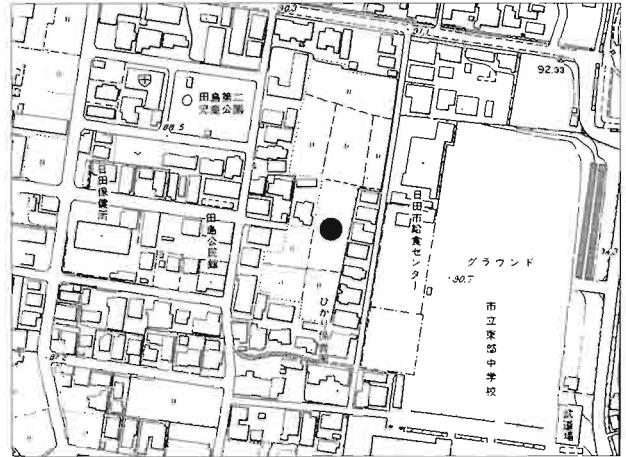
所在地 大字羽田字八田
 調査期間 1207~1208
 開発面積 (58,000㎡)
 調査面積 434㎡
 調査費 国庫補助
 検出遺構 柱穴・土坑
 出土遺物 土師器
 遺跡の時代 中世
 遺跡の種類 集落跡
 処置 盛土工法により現状保存
 担当者 土居和幸



遺跡位置図 (1/25,000)

29 日田条里飛矢地区

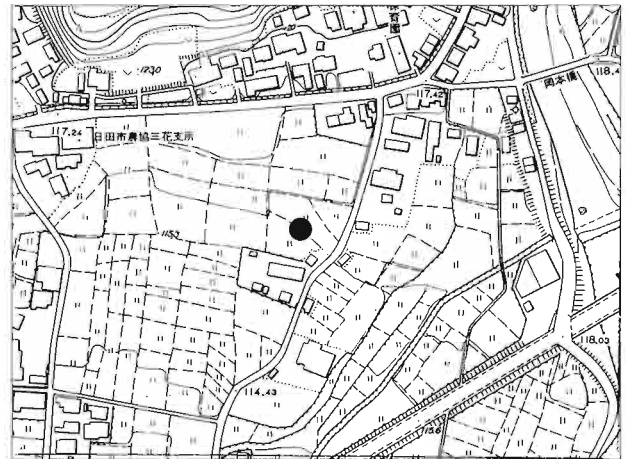
所在地	大字田島字飛矢232-1ほか
調査期間	1209
開発面積	1,809m ²
調査面積	26m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	土坑
出土遺物	弥生土器
遺跡の時代	弥生
遺跡の種類	集落跡
処置	工事実施
担当者	土居和幸



遺跡位置図 (1/5,000)

30 三和教田遺跡F地点

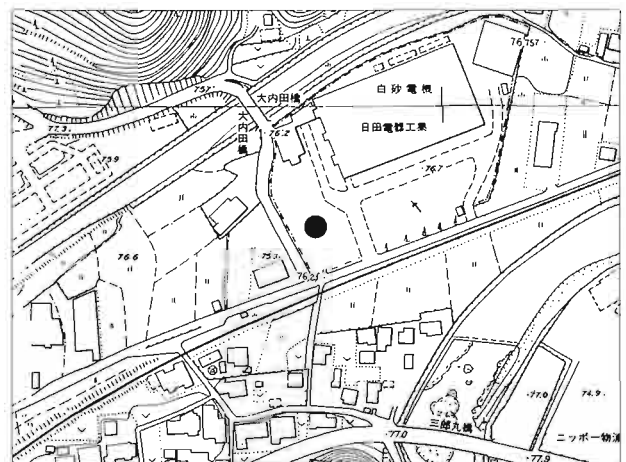
所在地	大字三和字寺田
調査期間	1221
開発面積	1718m ²
調査面積	30m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	なし
出土遺物	なし
遺跡の時代	—
遺跡の種類	—
処置	工事実施
担当者	土居和幸



遺跡位置図 (1/5,000)

31 大内田遺跡

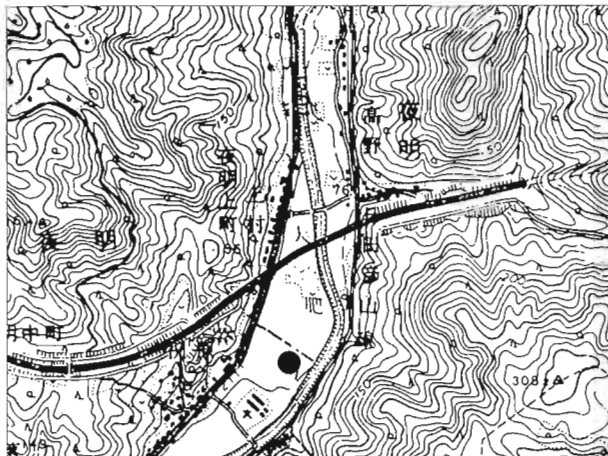
所在地	大字友田字大内田
調査期間	1216
開発面積	4,832m ²
調査面積	70m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	なし
出土遺物	なし
遺跡の時代	—
遺跡の種類	—
処置	工事実施
担当者	土居和幸



遺跡位置図 (1/5,000)

32 大肥条里祝原地区

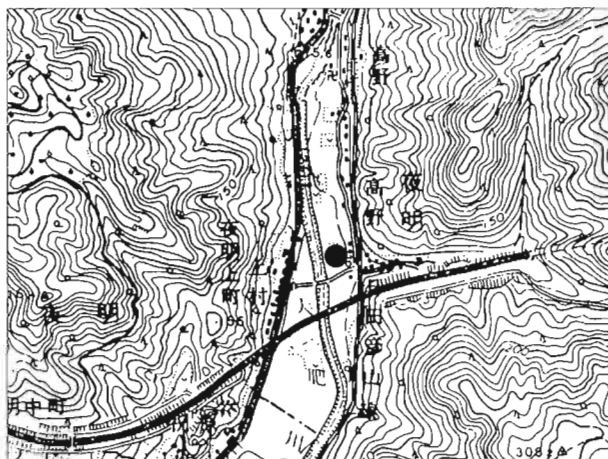
所在地 大字夜明字祝原1566-1ほか
調査期間 0113~0128
開発面積 (174,000m²)
調査面積 890m²
調査費 国庫補助
検出遺構 竪穴住居跡・鍛冶炉・溝・土坑・柱穴
出土遺物 縄文土器・弥生土器・土師器・輸入陶磁器
遺跡の時代 縄文・弥生・中世・近世
遺跡の種類 集落跡
処置 発掘調査実施
担当者 行時志郎



遺跡位置図 (1/25,000)

33 大肥条里茶屋ノ瀬地区

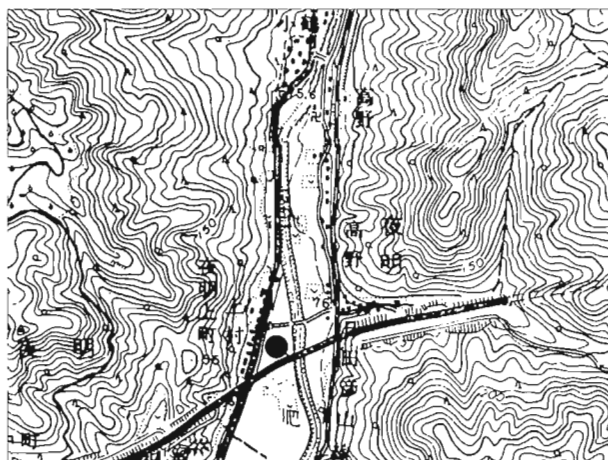
所在地 大字夜明字茶屋ノ瀬
調査期間 0113~0128
開発面積 (174,000m²)
調査面積 890m²
調査費 国庫補助
検出遺構 竪穴住居跡・鍛冶炉・溝・土坑・柱穴
出土遺物 縄文土器・弥生土器・土師器・輸入陶磁器
遺跡の時代 縄文・弥生・中世・近世
遺跡の種類 集落跡
処置 発掘調査実施
担当者 行時志郎



遺跡位置図 (1/25,000)

34 大肥条里上村地区

所在地 大字夜明字上村
調査期間 0113~0128
開発面積 (174,000m²)
調査面積 890m²
調査費 国庫補助
検出遺構 竪穴住居跡・鍛冶炉・溝・土坑・柱穴
出土遺物 縄文土器・弥生土器・土師器・輸入陶磁器
遺跡の時代 縄文・弥生・中世・近世
遺跡の種類 集落跡
処置 発掘調査実施
担当者 行時志郎



遺跡位置図 (1/25,000)

35 大肥条里小鶴地区

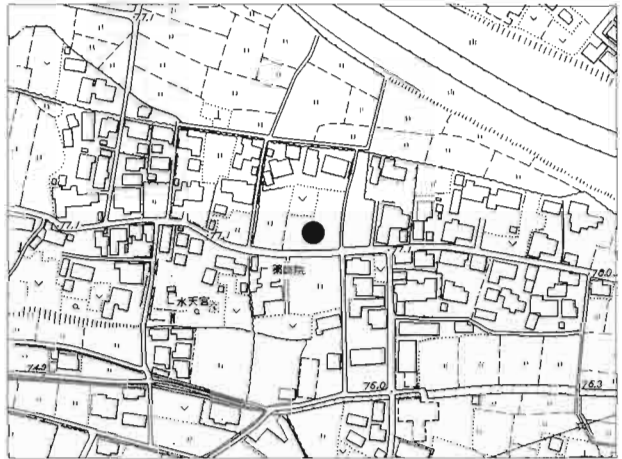
所在地	大字夜明字小鶴
調査期間	0113～0128
開発面積	(174,000m ²)
調査面積	890m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	竪穴住居跡・鍛冶炉・溝・土坑・柱穴
出土遺物	縄文土器・弥生土器・土師器・輸入陶磁器
遺跡の時代	縄文・弥生・中世・近世
遺跡の種類	集落跡
処置	発掘調査実施
担当者	行時志郎



遺跡位置図 (1/25,000)

36 徳瀬遺跡

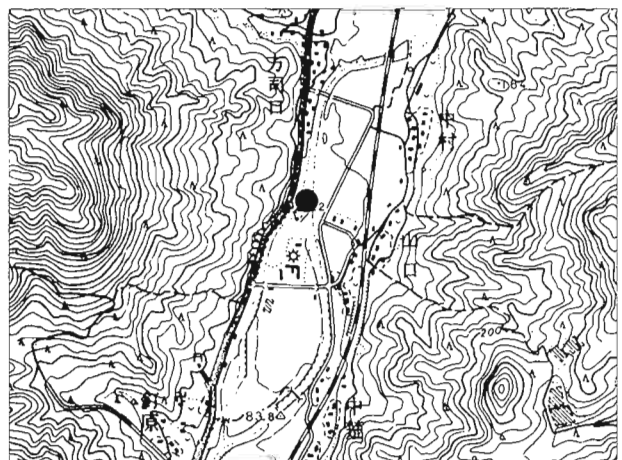
所在地	大字庄手字徳瀬908-1ほか
調査期間	0123
開発面積	902m ²
調査面積	10m ²
調査費	原因者負担
検出遺構	溝・柱穴
出土遺物	土師器・瓦質土器
遺跡の時代	中世
遺跡の種類	集落跡
処置	盛土保存により工事実施
担当者	行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

37 大肥条里中村地区

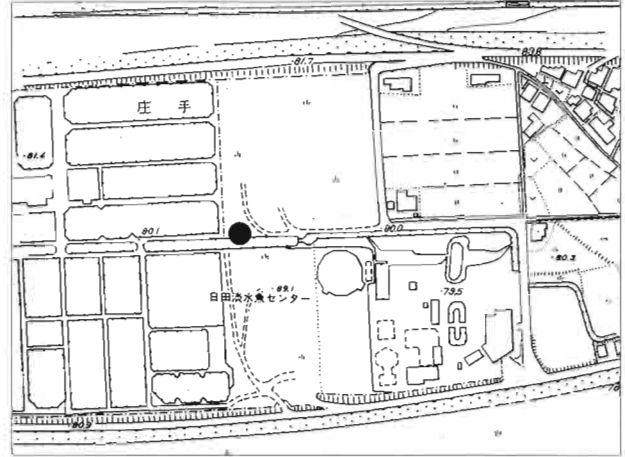
所在地	大字大肥字中村
調査期間	0129
開発面積	1,325m ²
調査面積	99m ²
調査費	国庫補助
検出遺構	竪穴住居跡・掘立柱建物
出土遺物	土師器・須恵器
遺跡の時代	古墳
遺跡の種類	集落跡
処置	工事実施
担当者	行時志郎



遺跡位置図 (1/25,000)

38 日隈城隣接地

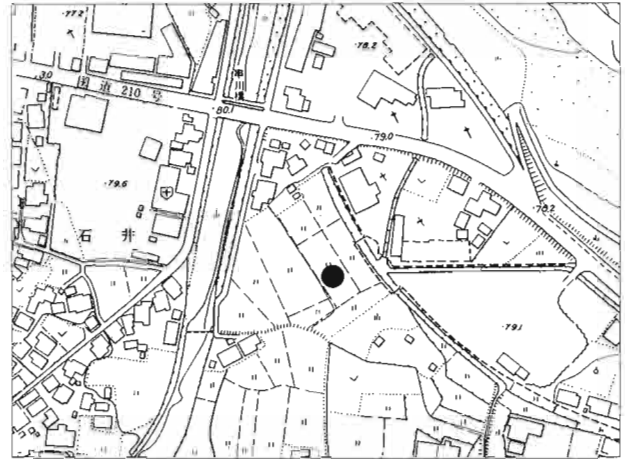
所在地 大字庄手字築場635-1ほか
 調査期間 0202
 開発面積 93,000m²
 調査面積 10m²
 調査費 国庫補助
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 遺跡の時代 -
 遺跡の種類 -
 処置 工事実施
 担当者 行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

39 尾坪遺跡

所在地 大字石井字立石274-4
 調査期間 0208
 開発面積 1,934m²
 調査面積 35m²
 調査費 国庫補助
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 遺跡の時代 -
 遺跡の種類 -
 処置 工事実施
 担当者 行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

40 大波羅遺跡隣接地

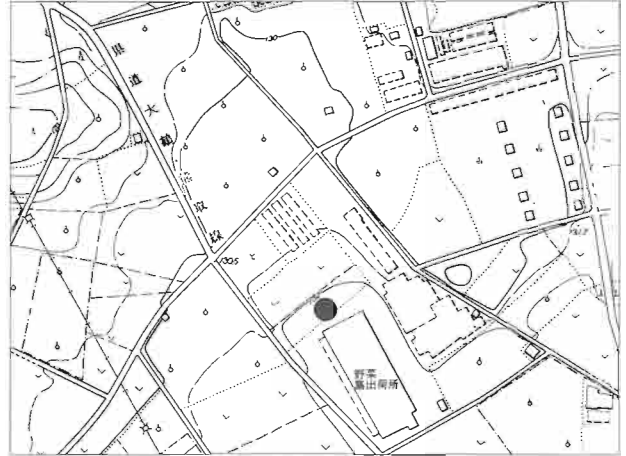
所在地 大字田島字大原535-1ほか
 調査期間 971212
 開発面積 1,141m²
 調査面積 18m²
 調査費 原因者負担
 検出遺構 坑跡・包含層
 出土遺物 土師器・青磁
 遺跡の時代 中世・近世
 遺跡の種類 包含層
 処置 工事実施
 担当者 土居和幸



遺跡位置図 (1/5,000)

41 山田原遺跡

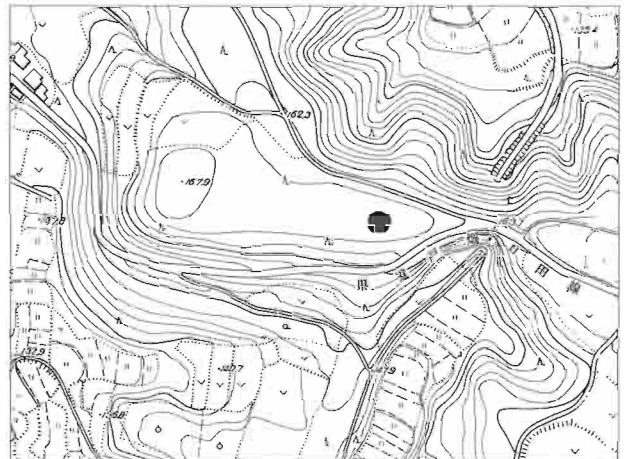
所在地 大字三和字原地535-1ほか
調査期間 0319～0326
開発面積 11,858m²
調査面積 55m²
調査費 国庫補助
検出遺構 なし
出土遺物 なし
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
処置 工事実施
担当者 行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

42 元宮遺跡2次

所在地 大字求来里字堂園630-1ほか
調査期間 0318～0331
開発面積 4,176m²
調査面積 150m²
調査費 国庫補助
検出遺構 溝・土坑・柱穴
出土遺物 土師器・陶磁器
遺跡の時代 古墳・中世
遺跡の種類 墓地・集落跡
処置 発掘調査実施
担当者 行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

43 大行寺遺跡

所在地 大字西有田字大行事
調査期間 0331
開発面積 (4,642m²)
調査面積 60m²
調査費 国庫補助
検出遺構 なし
出土遺物 なし
遺跡の時代 —
遺跡の種類 —
処置 工事実施
担当者 行時志郎



遺跡位置図 (1/5,000)

II 平成10年度の埋蔵文化財普及・啓発事業

1) 展示会の開催

名称 「吹上遺跡復元模型一般公開展」

主催 日田市教育委員会

期間 5月25日～6月26日

場所 日田市埋蔵文化財センター

入館者 約120名

展示品 吹上遺跡6次調査地点風景復元模型、吹上遺跡6次調査出土

遺物と複製品、川下遺跡出土の縄文土器、森ノ元遺跡出土の

縄文土器、平島遺跡出土の大型成人甕棺、口が原遺跡出土の土師器、大肥条里中村地区出土の土師器、尾漕2

号墳出土の須恵器・鉄刀、天満古墳出土の須恵器、塔ノ本古墳出土の鉄刀・鉄鏃、徳瀬遺跡出土の青磁碗、森

ノ元遺跡出土の青磁碗・青磁皿など60点



2) 刊行物の紹介

書名 『吹上遺跡』－第9次調査の概要報告－

体裁 A4版

総ページ数 本文24ページ、写真図版8ページ

内容 範囲確認を目的に行った吹上遺跡9次調査の概要報告書。調査で発掘された弥生時代の貯蔵穴、竪穴住居跡、大型成人用甕棺墓、土城墓、木棺墓、石蓋土城墓などを所収。



書名 『有田塚ヶ原遺跡群』

体裁 A4版

総ページ数 本文24ページ

内容 ウッドコンビナート建設に伴って発掘調査を行った有田塚ヶ原遺跡群の調査概要報告書。平島横穴墓群、尾漕2号墳、石ヶ迫遺跡、クビリ遺跡、有田塚ヶ原遺跡、祇園原遺跡、長迫遺跡を所収。



Ⅲ 平成10年度埋蔵文化財関係受領図書一覧

書名	寄贈者	発行年
北海道		
1 稚内市史 第二巻	稚内市	1999
千葉県		
2 農耕開始期の石器組成 3 北海道・東北・関東 国立歴史民俗博物館資料調査報告書 7	国立歴史民俗博物館	1997
3 農耕開始期の石器組成 4 中部・近畿 国立歴史民俗博物館資料調査 7		1997
4 山武考古学研究所年報 No16 (平成9年度)	山武考古学研究所	1998
神奈川県		
5 相模国府とその世界 夏期特別展	平塚市博物館	1998
東京都		
6 絵はがき 考古資料絵はがき (縄文時代遺物編)		
7 絵はがき 大森及び周辺地域の海草生産用具		1997
8 製作工程の考古学		1998
9 伝統的集落における歴史的環境整備を中心とした地域活性化に向けて	文化庁文化財保護部	1998
10 千駄ヶ谷五丁目遺跡 2次調査報告書-新宿駅貨物跡地再開発に伴う事前調査	千駄ヶ谷五丁目遺跡調査会	1998
11 日本の城郭城址に関する調査報告書Ⅷ 九州・沖縄編	財団法人 日本城郭協会	1998
12 城郭ニュース 第68号	〃	1998
13 上野忍岡遺跡群 上野駅東西自由通路建設地点 台東区埋蔵文化財発掘調査報告書 4	台東区文化財調査会	1999
長野県		
14 松本の押絵雛 収蔵資料図録	日本民俗資料館・松本市立博物館	1990
静岡県		
15 静岡県三島市 文化財年報第9号	三島市教育委員会	1997
16 中村分遺跡・天台B遺跡・台崎C遺跡・試掘調査県営緊急畑地帯整備事業に伴う発掘調査書 三島市埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ	〃	1998
京都府		
17 京都府埋蔵文化財情報 第67～70号	(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター	1998
18 第16回 小さな展覧会 98.8.15～8.29 平成9年度京都府内遺跡発掘調査成果速報	〃	1998
奈良県		
19 埋蔵文化財ニュース 85、86	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター	1997,8
20 創立三十周年記念誌 1967～1997	元興寺文化財研究所	1997
21 奈良国立文化財研究所 年報 1998-I～III	奈良国立文化財研究所	1998
22 文化財学報 第16集 岡田英男・古原宏伸先生送別記念集	奈良大学文学部文化財学科	1998
大阪府		
23 弥生文化 日本文化の源流をさぐる	大阪府立弥生文化博物館	1991
24 平成9年度春季特別展 青銅の弥生都市-吉野ヶ里をめぐる有明のクニグニ-	〃	1997
25 平成9年度秋季特別展 卑弥呼誕生-邪馬台国は畿内にあった?-	〃	1997
26 平成10年度春季特別展 縄文の祈り・弥生の心-森の神から稲作の神へ-	〃	1998
27 平成10年度秋季特別展 卑弥呼の宝石箱-ちょっとオシャレな弥生人-	〃	1998
28 弥生倶楽部 VOL. 11～15	〃	1996～8
29 大阪城跡の発掘調査 6 大阪城跡発掘調査概要Ⅱ	(財)大阪府文化財調査研究センター	1996
岡山県		
30 牛窓町史 資料編Ⅱ	岡山県邑久郡牛窓町	1997
島根県		
31 むかしむかしのあさくみがわ よみがえるあさくみがわのながれⅡ	島根県埋蔵文化財調査センター	1998
32 山ノ神遺跡・五反田遺跡 一般国道9号(安来道路)建設予定地内 埋蔵文化財発掘調査報告書16	島根県教育委員会	1998
33 古代出雲文化展 神々の国悠久の遺産	〃	1997
34 塩津山1号墳が語る古代の出雲	島根県教育委員会	1996
35 タイムトリップ ひがしいずも	〃	1996
36 斐伊川放水路発掘物語	(埋蔵文化財調査センター)	1997
37 よみがえるあさくみがわのながれ	〃	1997

書名	寄贈者	刊行年
38 かんどの流れ	(埋蔵文化財調査センター)	1997
39 ドキ土器まいぶん 夏～冬	島根県埋蔵文化財調査センター	1998
山口県		
40 研究紀要 第2号	下関市立考古博物館	1998
41 下関市立考古博物館年報3	〃	1998
42 あやらぎ 博物館だよりNo2	〃	1998
43 下関の弥生時代 一近年の発掘成果から一	〃	1998
徳島県		
44 三谷遺跡一徳島市佐古配水場増設工事に伴う発掘調査一	徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会	1997
45 徳島市埋蔵文化財発掘調査概要7、8	徳島市教育委員会	1997,8
愛媛県		
46 大峰ヶ台遺跡Ⅱ-9次調査一 松山市文化財調査報告書第62号	松山市教育委員会埋蔵文化財センター	1998
47 朝日谷2号墳 松山市文化財調査報告書第63号	〃	1998
48 和気・堀江の遺跡Ⅱ(姫原遺跡・谷町遺跡)松山市文化財調査報告書第64号	〃	1998
49 石井・浮穴の遺跡 松山市文化財調査報告書第65号	〃	1998
50 福音寺地区の遺跡Ⅱ(北久米浄蓮寺4・5・6次筋違J・K)松山市文化財調査報告書第67号	〃	1998
51 松山市埋蔵文化財調査年報X 平成9年度	〃	1998
52 平成10年度特別展 魂のゆくえ～検証、古代瀬戸内の精神文化～	松山市考古館	1998
福岡県		
53 福岡県朝倉郡朝倉町所在才田・東才田遺跡の調査九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-50-	福岡県教育委員会	1998
54 朝倉郡杷木町所在楠田遺跡・小覚原遺跡・二十谷遺跡・陣内遺跡・上野原遺跡九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-49-	〃	1998
55 朝倉郡朝倉町所在中妙見遺跡の調査原の東遺跡の調査I九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-50-	〃	1998
56 甘木市所在宮原遺跡の調査(D地区)IV九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-51-	〃	1998
57 甘木市所在宮原遺跡V九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書-52-	〃	1998
58 貝元遺跡I九州自動車道筑紫野I.C建設に伴う筑紫野市所在弥生古墳時代大集落の発掘調査報告	〃	1998
59 鈴ヶ山遺跡・広ミ遺跡 広川インターチェンジ関係埋蔵文化財調査報告 八女郡広川町所在遺跡の調査	〃	1998
60 諸田塚遺跡 福岡県筑紫野市大字長岡・常松・諸田所在遺跡の調査一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告第5集	〃	1998
61 以来尺遺跡Ⅱ 福岡県筑紫野市大字筑紫所在遺跡の調査一般国道3号筑紫野バイパス関係埋蔵文化財調査報告第6集	〃	1998
62 鷹取五反田遺跡I(上・下巻)浮羽郡吉井町大字鷹取所在遺跡の調査一般国道210号浮羽バイパス関係埋蔵文化財調査報告第9集	〃	1998
63 穴田古墳群・視山城跡 福岡県行橋市所在遺跡の調査 視山無線中継所関係埋蔵文化財調査報告書	〃	1998
64 上桑野遺跡・宇野代遺跡Ⅱ 築上郡新吉富村所在遺跡の調査一般国道10号豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第8集	〃	1998
65 大塚本遺跡 築上郡大平村大字下唐原所在遺跡の調査一般国道10号豊前バイパス関係埋蔵文化財調査報告第9集	〃	1998
66 郷ヶ原遺跡 築上郡大平村大字下唐原所在遺跡の調査一般国道10号豊前バイパス関係埋蔵文化財調査第10集	〃	1998
67 下唐原宮園遺跡 築上郡大平村所在遺跡の調査 一般河川山国川築堤関係埋蔵文化財調査報告2	〃	1998
68 下高橋馬屋元遺跡(2) 県道久留米・筑紫野関係埋蔵文化財調査報告8 福岡県文化財調査報告書133集	〃	1998
69 福岡県埋蔵文化財発掘調査年報-平成7年度-	〃	1998
70 重要文化財 旧日本生命保険株式会社九州支店保存整備工事報告書	福岡市教育委員会	1995
71 福岡市埋蔵文化財年報 Vol.11	〃	1998
72 有田・小田部 第30集 福岡市埋蔵文化財調査報告書第547集	〃	1998
73 三苦遺跡群3-第4次調査報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第548集	〃	1998
74 多々良込田遺跡Ⅳ-第7次調査報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第549集	〃	1998
75 箱崎遺跡5-箱崎遺跡群第9次調査- 蒲田部木原遺跡5-蒲田部木原遺跡群第5次調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第550集	〃	1998
76 箱崎6-箱崎遺跡群第10次調査の報告- 福岡市埋蔵文化財調査報告書第551集	〃	1998

書名	寄贈者	刊行年
77 吉塚4 - 吉塚遺跡群第4次調査の概要 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第552集	福岡市教育委員会	1998
78 吉塚3 - 吉塚遺跡群第3次調査の報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第553集	〃	1998
79 吉塚遺跡5 - 吉塚遺跡群第5次調査の報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第554集	〃	1998
80 吉塚6 - 吉塚遺跡群第6次調査の報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第555集	〃	1998
81 博多61 - 下川端地区市街地再開発事業に伴う博多遺跡群第89次調査の概要 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第556集	〃	1998
82 博多62 - 博多遺跡群第90次発掘調査概報 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第557集	〃	1998
83 博多63 - 博多遺跡群第97次調査の概要 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第558集	〃	1998
84 博多64 - 博多遺跡群第98次調査の概要 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第559集	〃	1998
85 博多65 - 博多遺跡群第99次・第101次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第560集	〃	1998
86 比恵遺跡群25 - 比恵遺跡群第58次調査の概要 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第561集	〃	1998
87 比恵遺跡群26 - 比恵遺跡群第59次・第60次・第61次調査の概要 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第562集	〃	1998
88 那珂遺跡20 - 那珂遺跡群第58次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第563集	〃	1998
89 那珂遺跡21 - 第59次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第564集	〃	1998
90 雀居遺跡4 福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第565集	〃	1998
91 下月隈C遺跡2 - 下月隈C遺跡2次、3次調査 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第566集	〃	1998
92 福岡市板付周辺遺跡調査報告書第19集 福岡市埋蔵文化財調査報告書第567集	〃	1998
93 麦野B遺跡 - 第3次・第4次発掘調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第568集	〃	1998
94 雑餉隈遺跡4 - 雑餉隈5次、8次、10次調査 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第569集	〃	1998
95 中南部(5) - 五十川遺跡群第3・4次、雑餉隈遺跡群第9次調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第570集	〃	1998
96 井尻B遺跡6 - 第8次調査 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第571集	〃	1998
97 和田B遺跡II - 野多目台住宅建設に伴う埋蔵文化財調査報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第572集	〃	1998
98 野方岩名隈1・藤崎12 - 野方岩名隈遺跡第1次調査及び藤崎遺跡第27次調査報告書 福岡市埋蔵文化財調査報告書第573集	〃	1998
99 有田・小田部31 - 有田遺跡群第181次、184次調査報告書 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第574集	〃	1998
100 野芥遺跡2 野芥遺跡群第4次調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第575集	〃	1998
101 野芥遺跡3 野芥遺跡群第7次・第8次調査の報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第576集	〃	1998
102 入部Ⅷ - 東入部遺跡群第1次調査報告(1)・第7次調査報告(2) - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第577集	〃	1998
103 松木田遺跡群第2次・第3次調査 縄文時代早期から平安時代の集落跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書第578集	〃	1998
104 金武古墳群 金武古墳群吉武G群の調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第579集	〃	1998
105 吉武遺跡群X 飯盛・吉武團場整備事業関係調査報告書4 - 弥生時代の墓地の調査報告I - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第580集	〃	1998
106 福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告 - 4 - 福岡市早良区賀茂所在野芥大藪遺跡第1次調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第581集	〃	1998
107 福岡外環状道路関係埋蔵文化財調査報告 - 5 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第582集	〃	1998
108 国道202号線今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告Ⅶ 福岡市埋蔵文化財調査報告書第583集	〃	1998
109 今山遺跡 第7次調査の報告 福岡市埋蔵文化財調査報告書第584集	〃	1998
110 飯氏古墳群B群第14号古墳 福岡市西区飯氏所在前方後円墳の重要遺跡確認調査 福岡市埋蔵文化財調査報告書第585集	〃	1998
111 鴻臚館跡9 - 平成9年度発掘調査概要報告 - 福岡市埋蔵文化財調査報告書第586集	〃	1998
112 福岡市埋蔵文化財センター年報 第17号	〃	1998
113 開館15周年特別展 西と東の縄文土器 土器が語る縄文時代の日本列島	北九州市立考古博物館	1998
114 筑後国府跡 第146次調査発掘調査概要 久留米市文化財調査報告書第131集	久留米市教育委員会	1997
115 京隈小路遺跡 - 第2次調査 - 久留米市京町所在遺跡の発掘調査報告 久留米市文化財調査報告書第132集	〃	1997
116 旗原遺跡 久留米市文化財調査報告書第133集	〃	1998
117 筑後国府跡 第148次調査 久留米市文化財調査報告書第134集	〃	1998
118 筑後国府跡 第149次調査発掘調査概要 久留米市文化財調査報告書第135集	〃	1998

書名	寄贈者	刊行年
119 筑後国府跡 第151次調査発掘調査概要 久留米市文化財調査報告書第136集	久留米市教育委員会	1998
120 鍵水古墳群一第2次調査一 久留米市教育委員会文化財調査報告書第138集	〃	1998
121 筑後国府跡・国分寺跡 平成9年度発掘調査概要 久留米市文化財調査報告書第139集	〃	1998
122 平成9年度久留米市内遺跡群 久留米市文化財調査報告書第140集	〃	1998
123 岡田地区遺跡群Ⅱ・Ⅲ 岡田土地区画整理事業に伴う文化財発掘調査 Ⅰ・Ⅱ区の調査 筑紫野市文化財調査報告書第56集	筑紫野市教育委員会	1998
124 国指定 五郎山古墳 保存整備事業に伴う発掘調査 筑紫野市文化財調査報告書第57集	〃	1998
125 隈・西小田地区遺跡群 隈・西小田土地区画整備事業に伴う発掘調査 筑紫野文化財調査報告書第38集	〃	1998
126 筑紫野市内遺跡分布図	〃	1998
127 太宰府条坊跡Ⅹー推定太宰府朱雀大路周辺の調査ー 太宰府市の文化財第37集	太宰府市教育委員会	1998
128 成屋形古墳 太宰府インターチェンジ拡幅に伴う埋蔵文化財発掘調査 太宰府市の文化財第38集	〃	1998
129 太宰府佐野地区遺跡群Ⅶ 前田遺跡第7次・宮ノ本遺跡第9次調査報告 太宰府市の文化財第39集	〃	1998
130 泊桂木遺跡 前原市大字泊字桂木所在遺跡の調査報告 前原市文化財調査報告書第64集	前原市教育委員会	1997
131 川原川右岸地区遺跡群Ⅱ 川原川右岸地区県営ほ場整備事業に伴う文化財調査報告 前原市文化財調査報告書第65集	〃	1998
132 前原市市内遺跡等分布地図	〃	1998
133 名残Ⅰ 宗像市所在遺跡の発掘調査報告 宗像市文化財調査報告書第18集	宗像市教育委員会	1988
134 朝町山ノ口Ⅱ 宗像市大字朝町字山ノ口所在遺跡の調査報告 宗像市文化財調査報告書第34集	〃	1991
135 浦谷古墳群Ⅲ 宗像市文化財調査報告書第36集	〃	1992
136 光岡辻ノ園 宗像市光岡所在遺跡の発掘調査報告 宗像市文化財調査報告書第43集	〃	1998
137 王丸長谷遺跡ー福岡県宗像市王丸所在遺跡の発掘調査ー 宗像市文化財調査報告書第44集	〃	1998
138 野坂新田 福岡県宗像市野坂所在遺跡の発掘調査報告 宗像市文化財調査報告書第45集	〃	1998
139 辻の西遺跡（第2次調査）福岡県八女市大字吉田字辻所在遺跡の調査報告 八女市文化財調査報告書第51集	八女市教育委員会	1998
140 高島遺跡 福岡県八女市大字津江字高島所在遺跡の調査報告 八女市文化財調査報告書第52集	〃	1998
141 八女東部地区埋蔵文化財発掘調査概報4 県営担い手育成基盤整備事業 八女市文化財調査報告書第53集	〃	1998
142 平蔵遺跡Ⅲ 筑紫郡那珂川町大字上梶原字平蔵所在遺跡群の調査 那珂川町文化財調査報告書第41集	那珂川町教育委員会	1998
143 城ノ下遺跡群 筑紫郡那珂川町大字山田所在遺跡の調査 那珂川町文化財調査報告書第42集	〃	1998
144 勝浦水押遺跡・勝浦浦ノ谷遺跡・勝浦乗越古墳・勝浦坂口遺跡・勝浦高原遺跡・勝浦井ノ口遺跡 津屋崎町文化財調査報告書第13集	津屋崎町教育委員会	1998
145 生家釘ヶ裏遺跡 担い手育成基盤整備事業勝浦地区に伴う発掘調査報告 津屋崎町文化財調査報告書第14集	〃	1998
146 津丸横尾遺跡 福岡町文化財調査報告書第11集	福岡町教育委員会	1997
147 八並中原遺跡 福岡町文化財調査報告書第13集	〃	1998
148 芦屋町遺跡詳細分布調査報告書 芦屋町文化財調査報告書第9集	芦屋町教育委員会	1998
149 上二貝塚 遠賀群水巻町所在遺跡の調査 水巻町文化財調査報告書第6集	水巻町教育委員会	1998
150 上荒谷北遺跡（京都郡豊津町大字豊津字荒谷所在遺跡の調査）豊津町文化財調査報告書第19集	豊津町教育委員会	1998
151 豊前国分尼寺跡（京都郡豊津町大字徳政所在寺院跡の調査）豊津町文化財調査報告書第20集	〃	1998
152 上臼井日吉古墳ー測量・実測調査および保存整備のための発掘調査ー 碓井町文化財調査報告書第3集	碓井町教育委員会	1998
153 国指定遺跡 鹿毛馬神籠石 嘉穂郡頼田町所在鹿毛馬神籠石の調査報告書Ⅲ 頼田町文化財調査報告書第4集	頼田町教育委員会	1998
154 原田遺跡群 原田地区遺跡の調査概報 若宮町文化財調査報告書第14集	若宮町教育委員会	1998
155 小原古墳群 九州電力株式会社500kv特別送電線鉄塔№148新設工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 若宮町文化財調査報告書第15集	〃	1998
156 嘉穂地区遺跡群Ⅳ（嘉穂郡嘉穂町所在、宮ノ脇、原田、森分遺跡の発掘調査） 嘉穂町文化財調査報告書第7集	嘉穂町教育委員会	1987
157 原田・鎌田原遺跡 平成8年度宮小路中益線原田遺跡発掘調査報告書 嘉穂町文化財調査報告書第18集	〃	1997
158 国指定史跡・八女古墳群 弘化谷古墳ー発掘調査及び保存整備報告書ー 広川町文化財調査報告書第7集	広川町教育委員会	1991

	書名	寄贈者	刊行年
159	本郷野開遺跡Ⅱ 三井郡大刀洗町大字本郷所在遺跡の調査 大刀洗町文化財調査報告書第13集	大刀洗町教育委員会	1997
160	本郷野開遺跡Ⅲ・Ⅳ 三井郡大刀洗町大字本郷所在遺跡の調査 大刀洗町文化財調査報告書第15集	〃	1998
161	高樋塚添遺跡Ⅱ 三井郡大刀洗町大字高樋所在遺跡の調査 大刀洗町文化財調査報告書第17集	〃	1998
162	池田・黒水遺跡 夜須地区遺跡群 XⅣ 福岡県朝倉郡夜須町大字三牟田・砥上所在遺跡調査報告書 夜須町文化財調査報告書第26集	夜須町教育委員会	1993
163	松崎遺跡Ⅰ 県道山家・西小田線関係埋蔵文化財調査報告Ⅰ 朝倉郡夜須町大字吹田所在遺跡調査報告 夜須町文化財調査報告書第28集	〃	1994
164	百万遺跡 朝倉郡夜須町大字東小田所在遺跡調査報告 夜須町文化財調査報告書第29集	〃	1995
165	大坪遺跡（夜須町立東小田小学校校内遺跡）朝倉郡夜須町大字東小田所在遺跡調査報告 夜須町文化財調査報告書第31集	〃	1995
166	松崎遺跡Ⅱ 夜須地区遺跡群 XⅧ 朝倉郡夜須町大字吹田所在遺跡調査報告 夜須町文化財調査報告書第33集	〃	1996
167	法福寺遺跡 夜須地区遺跡群 XⅨ 朝倉郡夜須町大字三並所在遺跡調査報告 夜須町文化財調査報告書第34集	〃	1996
168	切杭遺跡 夜須地区遺跡群 XⅩⅠ 埴織羅群夜須町大字松延所在遺跡調査報告 夜須町文化財調査報告書第36集	〃	1997
169	中牟田小学校遺跡 朝倉郡夜須町大字中牟田所在遺跡調査報告書 夜須町文化財調査報告書第37集	〃	1997
170	矢林遺跡 国道386号線バイパスに係る発掘調査報告Ⅰ － 福岡県朝倉郡朝倉町大字宮野所在遺跡群の調査 朝倉町文化財調査報告書第6集	朝倉町教育委員会	1998
171	朝倉町内遺跡等分布調査報告書 朝倉町文化財調査報告書第7集	〃	1998
172	王塚装飾古墳館 年報3 平成9年度	王塚装飾古墳館	1998
佐賀県			
173	東福寺遺跡 九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(17) 別冊肥前國長嶋荘関係史料集 佐賀県文化財調査報告書第121集	佐賀県教育委員会	1994
174	金立遺跡Ⅱ 4～9区の調査 佐賀市文化財調査報告書第87集	佐賀市教育委員会	1998
175	久富遺跡2区・友貞遺跡13区～17区 東千布遺跡4A区～4B区 佐賀市文化財調査報告書第88集	〃	1998
176	牟田奇遺跡Ⅳ 15・16・17区の調査 佐賀市文化財調査報告書第89集	〃	1998
177	修理田遺跡Ⅱ 2・3区の調査 佐賀市文化財調査報告書第90集	〃	1998
178	若宮原遺跡（2・3区）佐賀市文化財調査報告書第91集	〃	1998
179	東千布遺跡（5区）佐賀市文化財調査報告書第92集	〃	1998
180	坪の上遺跡Ⅰ 佐賀導水事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 佐賀市文化財調査報告書第93集	〃	1998
181	コマガリ遺跡 佐賀市文化財調査報告書第94集	〃	1998
182	琵琶原遺跡 6区の調査 佐賀市文化財調査報告書第95集	〃	1998
183	佐賀市埋蔵文化財確認調査報告書 1993・1994年度 佐賀市文化財調査報告書第96集	〃	1998
184	赤井手遺跡Ⅰ区・先立山遺跡Ⅰ区－佐賀市久保泉工業団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書 佐賀市文化財調査報告書第97集	〃	1998
185	土生遺跡Ⅰ－土生遺跡第9次調査報告書－ 三日月町文化財調査報告書第8集	三日月町教育委員会	1998
186	土生遺跡Ⅱ－土生遺跡第10次調査報告書－ 三日月町文化財調査報告書第9集	〃	1998
187	特別史跡 松浦鎮信陣跡・細川忠興陣跡 鎮西町文化財調査報告書第15集	鎮西町教育委員会	1998
188	塩鶴遺跡－県営畑地帯総合土地改良事業に伴う発掘調査－ 鎮西町文化財調査報告書第16集	〃	1998
189	鎮西層（第三紀）の巨木化石ダイアピルによるタイムカプセル 鎮西町文化財調査報告書第17集	〃	1998
熊本県			
190	堂園遺跡・中尾遺跡・別府遺跡 熊本県文化財調査報告第159集	熊本県教育委員会	1997
191	庵ノ前遺跡Ⅲ 一般国道3号熊本北バイパス改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 熊本県文化財調査報告第160集	〃	1997
192	塚坊主古墳 肥後古代の森整備事業に伴う埋蔵文化財調査 熊本県文化財調査報告第161集	〃	1997
193	打碎遺跡・古池さん遺跡・古池さん北遺跡 主要地方道路熊本高森線改良工事に伴う埋蔵文化財調査 熊本県文化財調査報告第162集	〃	1997
194	万年寺遺跡 建設省南九州西回り自動車道建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告 熊本県文化財調査報告第163集	〃	1997
195	鞠智城跡 第18次調査報告 熊本県文化財調査報告第164集	〃	1997

書名	寄贈者	刊行年
196 頭地松本B遺跡(1) 建設省川辺川建設事業に伴う埋蔵文化財の調査熊本県文化財調査報告第165集	熊本県教育委員会	1997
197 黒橋貝塚 浜戸川中小河川改良事業に伴う埋蔵文化財の調査 熊本県文化財調査報告第166集	〃	1998
198 二本木前遺跡 県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財の調査 熊本県文化財調査報告第167集	〃	1998
199 鶴羽田遺跡(仮称) 梶原ニュータウン造成工事に伴う埋蔵文化財調査 熊本県文化財調査報告第168集	〃	1998
200 鞠智城跡 第19次調査報告 熊本県文化財調査報告第169集	〃	1998
201 文化財通信熊本 第12~15号	〃	1997,8
202 平成10年度企画展「今どきの考古学」くまもと考古速報展	熊本県立装飾古墳館	1998
203 要覧 平成10年度(第7号)	〃	1998
204 五丁中原遺跡 五丁中原遺跡群第1次調査区発掘調査概要報告書	熊本市教育委員会	1997
205 つつじヶ丘横穴群 発掘調査概報告Ⅲ	〃	1997
206 菅原遺跡(平成6年度 市道井籠~箱の水線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書) 熊本県本渡市文化財調査報告書第7集	本渡市教育委員会	1996
207 本渡北小学校プール遺跡調査報告書 熊本県本渡市文化財調査報告書第8集	〃	1998
208 阿高城跡-採土工事に伴う発掘調査-城南町文化財調査報告書第10集	城南町教育委員会	1997
209 湯前の石造文化財 湯前町文化財調査報告書第3集	湯前町教育委員会	1998
210 熊本大学埋蔵文化財調査室年報 4	熊本大学埋蔵文化財調査室	1998
211 カミノハナ古墳群 研究室活動報告11	熊本大学文学部考古学研究室	1981
212 阿蘇町塔ノ木古墳群ドンベ塚・阿蘇町御塚横穴群A・B穴 研究室活動報告13	〃	1981
213 神園山瓦窯址 研究室活動報告26	〃	1991
214 高畑赤立遺跡 第三次発掘調査 研究室活動報告30	〃	1996
大分県		
215 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース 46	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館	1998
216 六郷山寺遺構確認調査報告書VI 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館報告書第20集	〃	1998
217 豊後香々地荘の調査 資料編 大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館報告書第21集	〃	1998
218 常設展示 豊の国・おおいの歴史と文化-くらしと祈り-	大分県立歴史博物館	1998
219 森羅万象に学ぶ-江戸の科学と好奇心- 開設10周年記念特別展	大分市歴史資料館	1997
220 大分市歴史資料館年報(平成8年度)	〃	1997
221 Funai 府内及び大友氏関係遺跡総合調査研究年報IV	〃	1996
222 大分市歴史資料館ニュース39~41	〃	"1997,8"
223 酒井寺西遺跡・表遺跡・長寿庵遺跡 大野地区遺跡群発掘調査概報Ⅲ	大野町教育委員会	1997
224 きよかわの文化財 第2集	清川村教育委員会	1997
225 尾首遺跡・市第V遺跡 県営担い手育成基盤整備事業都野東部地区に伴う発掘調査報告書Ⅲ	久住町教育委員会	1998
226 市第Ⅱ遺跡・市第Ⅲ遺跡・仏原第Ⅰ遺跡・仏原第Ⅱ遺跡・仏原第Ⅲ遺跡 県営担い手育成基盤整備事業都野東部地区に伴う発掘調査報告書Ⅱ	〃	1997
227 釘小野遺跡 直入郡直入町所在遺跡の発掘調査報告書	直入町教育委員会	1997
228 高畑遺跡 直入郡直入町所在遺跡の発掘調査報告書	〃	1997
229 天祐館遺跡 美術館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	佐伯市教育委員会	1997
230 檜野古墳 8農免農道堅田地区建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	〃	1998
231 安旨遺跡 安岐町文化財調査報告書第4集	安岐町教育委員会	1997
232 吉松市場遺跡 安岐町文化財調査報告書第5集	〃	1997
233 一ノ瀬古墳群 安岐町文化財調査報告書第6集	〃	1997
234 光広遺跡(竿地区) 安岐町文化財調査報告書第7集	〃	1998
235 両子寺閣連遺構 安岐町文化財調査報告書第8集	〃	1998
236 第十三回国民文化祭おおい98 特別展 石への祈り・庶民信仰	国東町教育委員会	1998
237 川原条里遺跡(千疋上り1地区・森本1地区) 県営圃場整備国東中部地区関係発掘調査報告書 国東町文化財調査報告書第16集	〃	1998
238 安国寺遺跡・平等寺遺跡・原遺跡・畑中遺跡・松屋敷遺跡・小谷遺跡 国東町文化財調査報告書第17集	〃	1998
239 宝命寺国東塔-大分県武蔵町宝命寺国東塔解体修理報告書-	武蔵町教育委員会	1996
240 ヒノクチ石塔群 大田村文化財調査報告書第5集	大田村教育委員会	1998
241 別府遺跡 国道387号道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅲ	宇佐市教育委員会	1998
242 宇佐地区遺跡群発掘調査概報X	〃	1998

書名	寄贈者	刊行年
243 上ノ原平原 A 遺跡 中津市文化財調査報告第20集	中津市教育委員会	1998
244 中津城下町遺跡 京町 御用屋敷跡 中津市文化財調査報告第21集	〃	1998
245 福島遺跡入垣地区 (Ⅲ) 定留遺跡向地区 1997年度中津地区遺跡群発掘調査概報 (X) 中津市文化財調査報告第22集	〃	1998
246 三光地区遺跡群発掘調査概報Ⅳ	三光村教育委員会	1995
247 三光村の遺跡 倉迫二つ塚古墳・倉迫平古墳・倉迫工場団地建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 三光村文化財調査報告書 (第2集)	〃	1995
248 下屋形遺跡	本耶馬溪町教育委員会	1998
249 妙ヶ野遺跡 - 耶馬溪町文化財調査報告書第1集 -	耶馬溪町教育委員会	1997
250 あまがせの文化財	天瀬町教育委員会	1998
251 古代の豊予交流 豊予海峡シンポジウム	豊予海峡シンポジウム実行委員会	1997
252 史学論叢 第23、26～28号	別府大学史学研究会	1993,5,7,8
253 ふるさと玖珠の歴史	玖珠郡史談会	1998
宮 崎 県		
254 寺崎遺跡第6次調査 国衙跡保存整備基礎調査概要報告書Ⅱ	宮崎県教育委員会	1998
255 宮崎県中近世城館跡緊急分布調査報告書Ⅰ 地名表・分布地図編	〃	1998
256 広木野遺跡・神殿遺跡A地区 県立学校運動場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 埋蔵文化財センター発掘調査報告書第7集	宮崎県埋蔵文化財センター	1997
257 尾平・植原遺跡 植原遺跡 県営特殊農地保全整備事業中尾地区 (植原工区) に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	〃	
258 埋蔵文化財センター発掘調査報告書第8集	〃	1997
259 前田遺跡 一般国道10号宮崎北バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 埋蔵文化財センター発掘調査報告書第9集	〃	1998
260 市位遺跡 希望ヶ丘西区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (1) 埋蔵文化財センター発掘調査報告書第10集	〃	1998
261 荒迫遺跡 宮崎フリーウェイ工業団地造成に伴う発掘調査報告書 埋蔵文化財センター発掘調査報告書第11集	〃	1998
262 平成9年度 東九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概要報告書Ⅱ (西都～清武) 埋蔵文化財センター発掘調査報告書第12集	〃	1998
263 埋蔵文化財通信『みやざき』第2, 3号	〃	1998
264 宮崎県埋蔵文化財センター年報 創刊号	〃	1998
265 鶴喰遺跡-横市地区県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書- 都城市文化財調査報告書第44集	都城市教育委員会	1998
266 昌明寺遺跡 県営担い手育成基盤整備事業昌明寺地区園場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告Ⅰ	〃	
267 えびの市埋蔵文化財発掘調査報告書第22集	えびの市教育委員会	1998
268 昌明寺遺跡 県営担い手育成基盤整備事業昌明寺地区園場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告Ⅱ	〃	
269 えびの市埋蔵文化財発掘調査報告書第23集	〃	1999
270 持田中尾遺跡 発掘調査概要報告書	高鍋町教育委員会	1982
271 妻道南遺跡 発掘調査報告書	〃	1986
272 永谷横穴墓 発掘調査報告書	〃	1986
273 中尾・牛牧地区遺跡 農村基盤総合整備パイロット事業尾鈴2期地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 高鍋町文化財調査報告書第7集	〃	1995
個 人		
平成9年度 日田市教育センター活動のまとめ	日田市教育センター	1998
岩波講座 日本考古学 1～7 別巻 1・2	後藤孝氏	1985,6
倭人と鉄の考古学 (シリーズ 日本史のなかの考古学)	村上恭通氏	1998
小鹿田焼 (すこやかな民陶の美)	小鹿田焼技術保存会	1998
新弥生紀行 (北の森から南の海へ)	朝日新聞社	1999
豊後国日田郡村明細帳 近世文書シリーズ第6集 別府大学文学部史学科近世史研究会	後藤重巳氏	1999

平成10年度（1998年度）
日田市埋蔵文化財年報

発行日 平成12年1月31日

編集 日田市教育委員会

発行 〒877-8601
大分県日田市田島2-6-1

印刷 日田時報紙器印刷株式会社